

Enterprise Vault™ Veritas Information Classifier を使用した分類

12.3

Enterprise Vault™: Veritas Information Classifier を使用した分類

最終更新日: 2018-03-09。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	7
	本書について	7
	Veritas 情報分類子と他の分類方法との関係	8
	このマニュアルの内容	8
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	9
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	11
第 2 章	分類のための Enterprise Vault の準備	12
	準備手順について	12
	前提条件	13
	Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認	13
	データアクセスアカウントの設定	14
	すべての Enterprise Vault サーバー上での Veritas Information Classifier の有効化	15
	クライアントと安全に接続するための Veritas Information Classifier の設 定	16
第 3 章	Veritas Information Classifier ポリシーの設定	19
	Veritas Information Classifier の概要	19
	Veritas 情報分類子の表示	20
	使用方法	20
	ポリシーと一致するサンプルコンテンツの分析	22
	ポリシーについて	23
	ポリシーの作成または編集	24
	ポリシー条件について	25
	ポリシーの有効化または無効化	31
	ポリシーのエクスポートまたはインポート	32
	ポリシーのリセット	32
	ポリシーの削除	32
	パターンについて	33
	パターンの作成または編集	34
	パターンのエクスポートまたはインポート	35
	パターンの削除	35
	タグについて	35

	タグの作成または編集	36
	タグのエクスポートまたはインポート	37
	Enterprise Vault のインデックスプロパティについて	38
	分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用	39
	保持カテゴリの設定に関する注意事項	40
	タグの削除	42
第 4 章	Enterprise Vault 分類ポリシーの定義と適用	43
	Enterprise Vault 分類ポリシーについて	43
	分類ポリシーの定義	45
	最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てる分類ポリシーの設定	46
	分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について	47
	分類プロパティと保持計画の関連付け	48
	保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について	50
	Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用	50
第 5 章	テストモードでの分類の実行	53
	分類テストモードについて	53
	分類テストモードの実装	54
	テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について	55
	分類テストモードレポートについて	55
第 6 章	スマートパーティションを使用した分類	57
	スマートパーティションについて	57
	Enterprise Vault がアイテムをスマートパーティションにアーカイブするか どうかを決める方法	58
	スマートパーティションの設定	59
	Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされた ことの確認	60
付録 A	カスタムフィールドの検索に使う Enterprise Vault のプロパティ	61
	Enterprise Vault のプロパティについて	61
	システムプロパティ	62
	添付ファイルのプロパティ	65
	Enterprise Vault のカスタムプロパティ	65
	ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロ パティ	67
	SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ	67

	Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ	68
	ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ	69
	Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ	70
付録 B	分類に使う PowerShell cmdlet	71
	cmdlet の分類について	71
	Disable-EVClassification	72
	Get-EVClassificationPolicy	73
	Get-EVClassificationStatus	76
	Get-EVClassificationTestMode	77
	Get-EVClassificationVICTags	78
	Initialize-EVClassificationVIC	80
	New-EVClassificationPolicy	82
	Remove-EVClassificationPolicy	86
	Set-EVClassificationPolicy	87
	Set-EVClassificationTestMode	90
付録 C	分類キャッシュフォルダ	92
	Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法	92
	分類ファイルサイズの制限	93
	キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成	94
付録 D	FCI 分類から Veritas Information Classifier への移行	95
	FCI 分類ルールを変換して Veritas 情報分類子で使用する	95
付録 E	監視とトラブルシューティング	97
	監査	97
	分類パフォーマンスカウンタの確認	98
	分類のトラブルシューティング	99
	アーカイブ内での Veritas Information Classifier が分類したアイテムの検索	101

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [本書について](#)
- [このマニュアルの内容](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

本書について

このマニュアルは、Veritas 情報分類子を使って分類タグを新しいアーカイブ済みコンテンツと既存のアーカイブ済みコンテンツのすべてに割り当てる Enterprise Vault 管理者を対象にしています。Enterprise Vault 検索、Compliance Accelerator、および Discovery Accelerator などのアプリケーションのユーザーが検索またはレビューを実行するときに、Veritas 情報分類子がアイテムに割り当てたタグに従ってアイテムをフィルタ処理できます。

Veritas 情報分類子は、一連のポリシーを基準にした分類のために送信するアイテムを評価します。各ポリシーには、特定の分類タグの割り当てのためにアイテムが満たす必要のある条件が指定されています。たとえば、ポリシーを使用して、コンテンツにクレジットカード番号が含まれるアイテムを検索し、該当するアイテムに「Credit-Card」タグを割り当てるようにできます。Veritas 情報分類子には、50 を超える組み込み分類ポリシーが含まれており、世界の多くのデータ保護規制や企業の基準に対応しています。たとえば、個人識別情報 (PII) を検出するポリシーを通じて GDPR などのプライバシー規制に対応できます。また、カスタムポリシーも作成できます。

Veritas 情報分類子は、分類タグを割り当てるほかにも、アイテムの保持カテゴリの更新、アイテムへの削除マーク付け、Compliance Accelerator のレビューセットへの包含 (またはレビューセットからの除外) を行うことができます。

Veritas 情報分類子と他の分類方法との関係

Enterprise Vault 12 では、最近の Windows Server エディションに組み込まれている分類エンジンであるファイル分類インフラストラクチャによるアイテムの分類方法を使用しました。この方法は、現在のバージョンの Enterprise Vault でも、Veritas 情報分類子に加えて、またはその代替方法として、引き続き使用できます。ただし、ファイル分類インフラストラクチャの分類オプションは、Veritas 情報分類子の分類オプションよりも機能が限られているだけでなく、実装がより難しくなります。そのため、アーカイブコンテンツの分類には Veritas 情報分類子を使用することを推奨します。

p.95 の「FCI 分類ルールを変換して Veritas 情報分類子で使用する」を参照してください。

ファイル分類インフラストラクチャについて詳しくは、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類に関するガイドを参照してください。

このマニュアルの内容

表 1-1 に、このマニュアルのコンテンツの概略を示します。

表 1-1 このマニュアルのコンテンツ

章	機能
1	このマニュアルの紹介と Enterprise Vault に関する詳しい情報の入手方法について説明します。
2	分類のために Enterprise Vault を準備するいくつかの手順について、順を追って説明します。 p.12 の「準備手順について」を参照してください。
3	分類のために送信するアイテムにタグを付ける際に使用する、Information Classifier ポリシーの設定方法について説明します。 p.19 の「Veritas Information Classifier の概要」を参照してください。
4	Enterprise Vault サイトに実装する分類機能を選択し、それらをユーザーのアーカイブに割り当てる方法を説明します。 p.43 の「Enterprise Vault 分類ポリシーについて」を参照してください。
5	機能を有効にする前に分類をテストモードで実行する方法を概説します。 p.53 の「分類テストモードについて」を参照してください。
6	Enterprise Vault のアイテムの分類方法に応じて、各種のアイテムをさまざまなスマートパーティションにアーカイブする方法について説明します。 p.57 の「スマートパーティションについて」を参照してください。

このマニュアルでは、管理コンソールや PowerShell 管理シェルなど、多数の Enterprise Vault 機能に関する知識があることを想定しています。

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

表 1-2 に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#)から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-2 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。

マニュアル	コメント
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。

マニュアル	コメント
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

分類のための Enterprise Vault の準備

この章では以下の項目について説明しています。

- [準備手順について](#)
- [前提条件](#)
- [Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認](#)
- [データアクセスアカウントの設定](#)
- [すべての Enterprise Vault サーバー上での Veritas Information Classifier の有効化](#)
- [クライアントと安全に接続するための Veritas Information Classifier の設定](#)

準備手順について

[表 2-1](#) の準備手順が完了したら、Veritas Information Classifier ポリシーの設定を開始できます。

表 2-1 分類のための Enterprise Vault の準備手順

手順	処理	関連情報
手順 1	分類を実装するための必要条件を満たしていることを確認します。	p.13 の「 前提条件 」を参照してください。
手順 2	Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムを一時的に格納できる、適切なキャッシュ場所があることを確認します。	p.13 の「 Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認 」を参照してください。

手順	処理	関連情報
手順 3	まだ設定していない場合は、データアクセスアカウントを設定します。Enterprise Vault は、このアカウントを使用して Veritas Information Classifier との間の通信を行います。	p.14 の「 データアクセスアカウントの設定 」を参照してください。
手順 4	PowerShell cmdlet を実行して、すべての Enterprise Vault サーバーで Veritas Information Classifier を有効にします。	p.15 の「 すべての Enterprise Vault サーバー上での Veritas Information Classifier の有効化 」を参照してください。
手順 5	セキュリティをさらに高めるために、Veritas Information Classifier へのすべての接続に SSL を設定した HTTPS を使用することをお勧めします。	p.16 の「 クライアントと安全に接続するための Veritas Information Classifier の設定 」を参照してください。

前提条件

Veritas 情報分類子を使用した分類に必要なすべてのコンポーネントは、Enterprise Vault のインストール時にインストールされます。しかし、次のものも必要になります。

- Enterprise Vault 保持機能のライセンス。
保持機能のライセンスをインストールする必要がある場合、または既存のライセンスが期限切れになった場合、分類はテストモードで動作します。
- Vault 管理コンソールの次の RBA ロールの 1 つ以上。

■ Domino 管理者	■ メイン管理者
■ Exchange 管理者	■ PST 管理者
■ 拡張コンテンツプロバイダの管理者	■ SharePoint 管理者
■ ファイルサーバー管理者	■ SMTP 管理者
■ NSF 管理者	

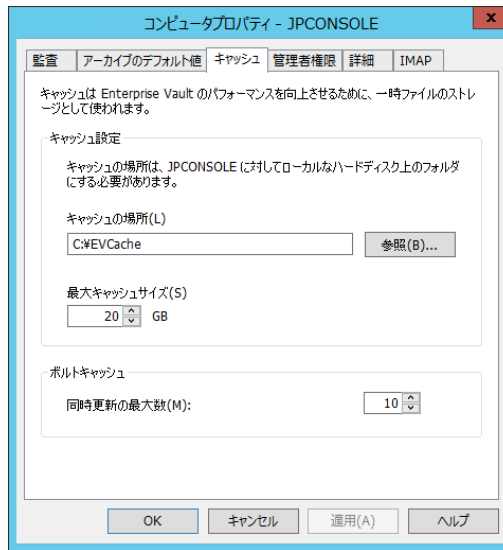
RBA について詳しくは、『Veritas Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認

分類を実行する各ストレージサーバーで、Enterprise Vault は分類対象アイテムそれぞれの平文の複製を所定のキャッシュ場所のサブフォルダに格納します。この場所を正しく設定していることを確認すると安全です。

Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュの場所を確認するには

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 Enterprise Vault[サーバー]コンテナを展開します。
- 3 適切なサーバーを右クリックしてショートカットメニューの[プロパティ]を選択します。
- 4 [コンピュータプロパティ]ダイアログボックスで、[キャッシュ]タブをクリックします。
- 5 [キャッシュの場所]に、適切なローカルパスを指定します。



分類機能により、指定したキャッシュの場所のサブフォルダ (たとえば、D:\¥EVStorage¥Cache¥Classification) Classification に分類したファイルを格納します。

最適なパフォーマンスを確保するためには、ローカルに接続された高速ストレージでキャッシュフォルダを作成することが重要です。オペレーティングシステムドライブ以外のドライブにフォルダを作成することを推奨します。

データアクセスアカウントの設定

Enterprise Vault は、データアクセスアカウントを使用して Veritas Information Classifier にアクセスします。このアカウントをまだ設定していない場合は、次の手順で設定できます。

データアクセスアカウントを設定する方法

- 1 データアクセスアカウントとして使用する Windows ドメインユーザーアカウントを作成します。アカウントは、この目的のために特別に作成する基本ドメインアカウントにする必要があります。ローカルコンピュータアカウントは使用できません。アカウントはどの管理グループにも属していない必要があります。
- 2 Vault サービスアカウントを使用して Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 3 Enterprise Vault 管理コンソールを起動します。
- 4 管理コンソールの左ペインで、[ディレクトリ]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 5 [ディレクトリプロパティ]ダイアログボックスの[データアクセスアカウント]タブをクリックします。
- 6 [アカウント]ボックスで、データアクセスアカウントを選択します。
- 7 アカウントのパスワードを入力し、確認します。

すべての Enterprise Vault サーバー上での Veritas Information Classifier の有効化

Veritas Information Classifier を Enterprise Vault サイト内のすべてのサーバー上で有効にするには、提供されている PowerShell cmdlet

`Initialize-EVClassificationVIC` を実行します。また、これらのサーバーそれぞれに、cmdlet で Microsoft インターネットインフォメーションサービス (IIS) の Veritas Information Classifier の Web サイトを設定します。

このセクションでは cmdlet の実行方法の概要を説明します。後のセクションでこの cmdlet の包括的な情報を示します。

p.80 の「[Initialize-EVClassificationVIC](#)」を参照してください。

Veritas Information Classifier をすべての Enterprise Vault サーバー上で有効にする方法

- 1 すべての Enterprise Vault サーバーからアクセス可能な共有ネットワークドライブで、Veritas Information Classifier でポリシー情報を保持するフォルダを作成します。

ボルトサービスアカウントとデータアクセスアカウントの両方に、このフォルダの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。
- 2 ボルトサービスアカウントを使用して Enterprise Vault サーバーにログインします。

- 3 Enterprise Vault 管理シェルの開きます。
- 4 コマンドプロンプトで、次のようなコマンドを入力します。

```
Initialize-EVClassificationVIC [-PoliciesPath <String>] [-SiteId  
<String>]
```

それぞれの内容は次のとおりです。

-PoliciesPath	Veritas Information Classifier でポリシー情報を保持するネットワークフォルダへの UNC パスを指定します。
-SiteId	Veritas Information Classifier を設定する Enterprise Vault サイトの ID を指定します。複数の Enterprise Vault サイトを使用している場合は、このパラメータが役に立ちます。

次に例を示します。

```
Initialize-EVClassificationVIC -PoliciesPath \\$server1\%vicPolicies
```

メモ: cmdlet は、有効なポリシーがないことを示す警告を表示します。これは単に、Veritas Information Classifier で必要なポリシーを設定しないとアイテムを分類できないという通知です。

クライアントと安全に接続するための Veritas Information Classifier の設定

Veritas Information Classifier エンジン は Java アプリケーションであり、インターネットインフォメーションサービス (IIS) によって管理されます。Enterprise Vault 12.3 以降の新規インストールでは、クライアントユーザーはデフォルトで、Enterprise Vault Web Access アプリケーション用に設定されたポート (通常はポート 443) で HTTPS を使用して Veritas Information Classifier にアクセスします。証明書が存在しない場合、Enterprise Vault は自己署名証明書を使用して IIS で SSL (Secure Sockets Layer) を設定します。この証明書は、できるだけ早く信頼できる認証局から取得した証明書に交換することをお勧めします。このセクションの手順では、新しい証明書をインポートして適用する方法について説明します。

12.3 よりも前のバージョンの Enterprise Vault からアップグレードした場合は、既存の IIS 設定は変更されません。Enterprise Vault が TCP ポート 80 を経由して HTTP を使用する設定になっている場合は、このセクションの説明のとおり、SSL を設定した HTTPS を使用するよう設定して、Veritas Information Classifier の配備のセキュリティを強化することをお勧めします。

次の点に注意してください。

- 次の処理によってクライアントコンピュータと IIS との接続のセキュリティが保護されますが、IIS と Veritas Information Classifier エンジンとの接続のセキュリティは保護されません。ただし、IIS と Veritas Information Classifier エンジンは同じサーバー上に存在しているため、これが問題になることはありません。悪質なユーザーが傍受できるネットワークトラフィックが存在しないからです。
- Veritas Information Classifier に SSL による HTTPS を実装することは、Enterprise Vault 検索などのその他の Enterprise Vault の機能にもこの接続を実装することになります。

クライアントと安全に接続できるように Veritas Information Classifier を設定する方法

- 1 Vault 管理コンソールの Enterprise Vault サイトのプロパティで、[SSL ポートで HTTPS を使用] オプションが選択されていることを確認します。

HTTPS のデフォルトポートは 443 ですが、必要に応じて別のポートを選択できます。
- 2 SSL 証明書要求を作成して送信します。

証明書は信頼できる認証局から入手することを推奨しますが、自己署名証明書を使用することもできます。
- 3 Enterprise Vault サーバーの IIS マネージャで次の手順を実行します。
 - サーバー証明書機能を使用して、新しい証明書をインストールします。
 - デフォルトの Web サイトにバインドしているサイトで、HTTPS プロトコルのバインドを追加して新しい証明書にリンクを作成します。
 これら 2 つの手順を実行する方法については、IIS のマニュアルを参照してください。
- 4 信頼できる認証局から証明書を入手しなかった場合は、それを JRE (Java Runtime Environment) キーストアにインポートします。このキーストアは、Enterprise Vault サーバー上の Enterprise Vault のインストールフォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Services\JRE\lib\security\cacerts) にあります。

Keytool ユーティリティを使用して証明書をインポートできます。このユーティリティは JRE に含まれており、その実行方法は Oracle 社の Web サイトで確認できます。たとえば、次の場所で確認できます。

<http://docs.oracle.com/javase/7/docs/technotes/tools/windows/keytool.html>

証明書をインポートする Keytool コマンドは、次の形式になります。

```
keytool -importcert -trustcacerts -alias alias_name -file
path_to¥certificate_file -keystore path_to¥keystore_file
-storepass keystore_password
```

たとえば、次のようになります。

```
keytool -importcert -trustcacerts -alias mydomain.cdb.local -file  
C:\MyKey.cer -keystore C:\Program Files (x86)\Enterprise  
Vault\Services\JRE\lib\security\cacerts -storepass changeit
```

メモ: Enterprise Vault をアップグレードするときには毎回、cacerts キーストアファイルのバックアップコピーが作成され、新しいバージョンのファイルで置き換えられます。そのため、SSL 証明書をキーストアにもう一度インポートする必要があります。このような理由のため、証明書のコピーを保存しておくことが推奨されます。あるいは、次の記事で説明される手順に従い、キーストアファイルのバックアップコピーから証明書をエクスポートすることもできます。

<https://www.veritas.com/docs/100034115>

- 5** 次のような Keytool コマンドを実行して、証明書が正常にキーストアにインポートされたことを確認します。

```
keytool -list -keystore C:\Program Files (x86)\Enterprise  
Vault\Services\JRE\lib\security\cacerts
```

Veritas Information Classifier ポリシーの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Information Classifier の概要](#)
- [Veritas 情報分類子の表示](#)
- [使用方法](#)
- [ポリシーと一致するサンプルコンテンツの分析](#)
- [ポリシーについて](#)
- [パターンについて](#)
- [タグについて](#)

Veritas Information Classifier の概要

Veritas Information Classifier を使用すると、アイテムのコンテンツやメタデータに基づいてアイテムを分類できます。Veritas Information Classifier の主要な領域は、次のとおりです。



[Policies]。Veritas Information Classifier は、一連のポリシーを基準にした分類のために送信するアイテムを評価します。各ポリシーには、特定の分類タグの割り当てのためにアイテムが満たす必要のある条件が指定されています。さまざまな組み込みポリシーによって、アイテムの分類が必要な多数の規制や企業の基準が網羅されており、追加の要件がある場合はカスタムポリシーを作成できます。

p.23 の「[ポリシーについて](#)」を参照してください。



[Patterns]。各組み込みポリシーが、分類のために送信したアイテムを 1 つ以上のパターンに対してチェックします。これらのパターンは高度なアルゴリズムを使用して、必要な信頼度レベルを満たす一致を検索します。組み込みパターンと、自分で作成したカスタムポリシーを組み合わせたリ、独自のカスタムパターンを作成したりできます。

p.33 の「パターンについて」を参照してください。



[Tags]。分類のために送信したアイテムがポリシーの条件を満たすと、Veritas Information Classifier は関連付けられたタグをアイテムに割り当てます。カスタムタグを作成して、組み込みタグを多数追加できます。

各タグをインデックスプロパティに関連付けます。これは、タグを格納するアイテムのメタデータプロパティです。また、タグを保持カテゴリに関連付けることもできます。これにより、アイテムに保持カテゴリに関連付けると同時に、Veritas Information Classifier がアイテムにタグを割り当てることが可能になります。

p.35 の「タグについて」を参照してください。



[Analyze]。この機能を使用して、組織のファイルコンテンツのサンプルフォルダーにあるポリシーの一致を検索します。利用可能なすべてのポリシーに対してコンテンツを評価することも、個々のポリシーまたはポリシーのグループに分析を制限することもできます。

分析の進行中、Veritas Information Classifier は、重要なデータが含まれている可能性のあるファイルの割合とそれらのファイルの推定されるリスクレベルについて、リアルタイムの統計情報を表示します。分析が完了したら、その結果のレポートを PDF 形式およびカンマ区切り値 (CSV) 形式でダウンロードできます。

p.22 の「ポリシーと一致するサンプルコンテンツの分析」を参照してください。

Veritas 情報分類子の表示

次の手順を実行して、Vault 管理コンソールから Veritas 情報分類子を表示することができます。

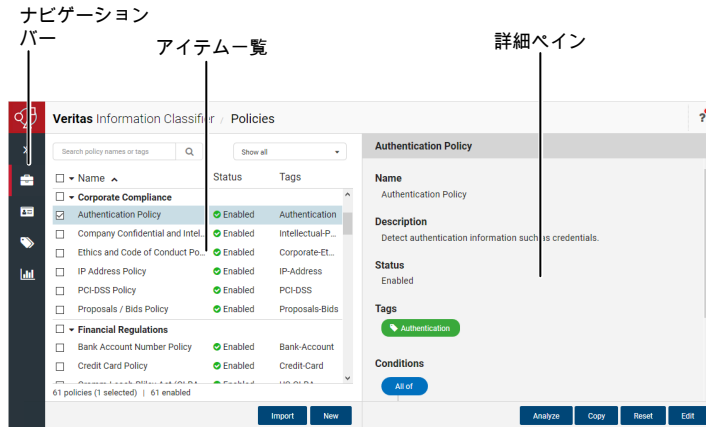
Veritas 情報分類子を表示する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [分類]コンテナを右クリックし、[情報分類子を起動]をクリックします。

Veritas 情報分類子がデフォルトの Web ブラウザで表示されます。

使用方法

Veritas Information Classifier のウィンドウは、ナビゲーションバー、アイテムリスト、詳細ペインという 3 つの主要な領域に分かれています。



ナビゲーションバー

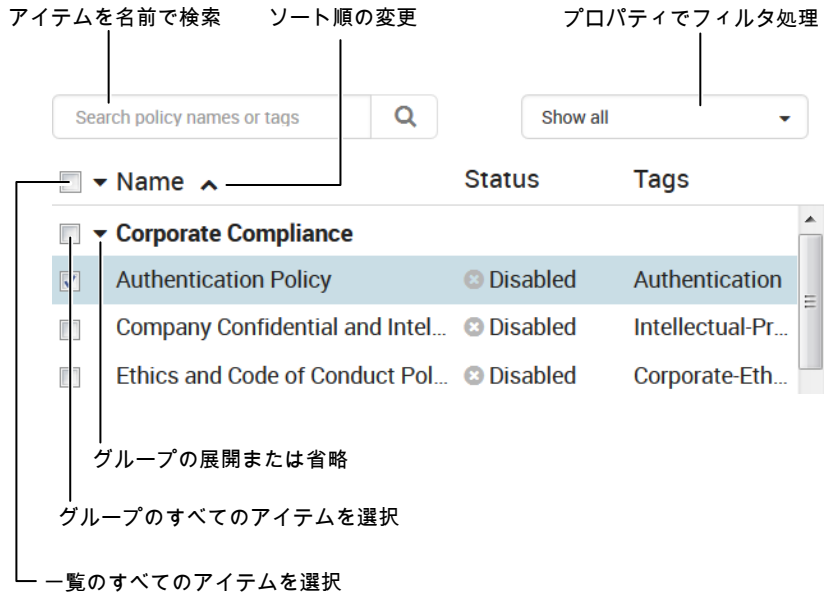
ナビゲーションバーには、Veritas Information Classifier のページを開くボタンがあります。このバーを折りたたんでボタンのみを表示することも、バーを固定して作業中に表示し続けることもできます。



アイテム一覧

アイテム一覧には、使用可能なアイテムの一覧と、それらのアイテムに関する基本情報が表示されます。アイテムをクリックすると、詳細ペインに追加情報が表示されます。

各一覧の上部にあるコントロールを使用して、名前によるアイテムの検索、様々な基準でのアイテムのフィルタリング、一覧の展開または折りたたみ、ソート順序の変更を実行できます。



詳細ペイン

詳細ペインには、選択したアイテムの詳細情報が表示されます。アイテムを編集したり、新しいアイテムを作成して一覧に追加したりする際にも、このペインを使用します。

ポリシーと一致するサンプルコンテンツの分析

ポリシーを有効にする前に、組織のコンテンツのサンプルセットに対してポリシーを評価することができます。分析機能では、これを行うだけでなく、結果として詳細なリスクとコンプライアンスの分析レポートも生成します。このレポートを使用して、組み込みポリシーがニーズを満たすかどうか、追加のカスタムポリシーも必要かどうかを判断できます。

画像や音声ファイルなどの特定のファイルタイプにはテキストコンテンツがないため、分析機能ではスキップされることに注意してください。また、10 MB より大きいファイルもスキップされます。

ポリシーと一致するとサンプルコンテンツを分析する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - 1 つ以上の特定のポリシーと一致するコンテンツを見つけるには、ポリシーリストでこれらのポリシーを選択し、[Analyze]をクリックします。

- 利用可能なポリシーのいずれか、または GDPR や個人データポリシーなどの関連ポリシーグループと一致するコンテンツを見つけるには、Veritas Information Classifier の左側の [Analyze] をクリックします。
- 2 分析ウィザードの [ポリシー] ページで、必要なオプションを選択していることを確認し、[Next] をクリックして [フォルダ] ページに移動します。
 - 3 [フォルダ] ページで、分析するファイルを含むローカルフォルダまたはネットワークフォルダをドラッグアンドドロップし、[Next] をクリックして [分析] ページに移動します。
最大 20,000 個のファイルを分析できます。
 - 4 [分析] ページで分析の完了を待ち、タブをクリックして詳細情報を表示するか、[Next] をクリックして [概略] ページに移動します。
多数のファイルがある場合や、大量のテキストが含まれる場合は、分析に時間がかかることがあります。
 - 5 [概略] ページで、[Download full report] をクリックします。リスクとコンプライアンスの分析レポートは PDF 形式とカンマ区切り値 (CSV) 形式の両方でダウンロードできます。

ポリシーについて

Veritas Information Classifier は、一連のポリシーを基準にした分類のために送信するアイテムを評価します。各ポリシーには、特定の分類タグの割り当てのためにアイテムが満たす必要のある条件が指定されています。たとえば、「fraud」、「cover up」、および「write off」という用語のいずれかが含まれるアイテムに「Financial」のタグを割り当てるためのシンプルなポリシーを作成できます。

The screenshot shows the policy configuration interface with the following sections:

- Description:** A text box containing "Detects financial misconduct." with a green checkmark icon to its right.
- Tags *:** A green button labeled "Financial" with a close icon (x) to its right.
- Conditions:**
 - A blue button labeled "Any of" with a dropdown arrow.
 - A list of conditions: "Content" (dropdown), "contains text" (dropdown), and a list of terms: "fraud", "cover up", and "write off".

Veritas Information Classifier には組み込みポリシーが多数付属していますが、組み込みポリシーではニーズが満たされない場合にはカスタムポリシーを作成できます。

最初は、すべてのポリシーが無効になっています。Veritas Information Classifier でポリシーと一致するアイテムを確認してタグを付ける場合は、ポリシーを有効にする必要があります。

ポリシーの作成または編集

Veritas Information Classifier には組み込みポリシーが多数付属していますが、組み込みポリシーではニーズが満たされない場合にはカスタムポリシーを作成できます。

また、既存のポリシーの編集も行えます。ただし、組み込みポリシーの場合、適用できる変更はかなり限定されます。

ポリシーを作成または編集する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[Policies]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ポリシーを新規作成するには、[New]をクリックします。
 - 既存のポリシーをコピーしてポリシーを作成するには、ポリシーを選択して[Copy]をクリックします。
 - 既存のポリシーを編集するには、ポリシーをクリックして[Edit]をクリックします。
- 3 フィールドを次のように設定します。

Name	ポリシー名を指定します。名前は一意である必要があり、最大 100 個の英数字、スペース、および特殊文字を含めることができます。
Status	ポリシーを有効または無効にします。Veritas Information Classifier でポリシーと一致するアイテムを確認してタグを付ける場合は、ポリシーを有効にする必要があります。
Description	(オプション)Veritas Information Classifier に表示するポリシーの簡単な説明を指定します。
Tags	ポリシーの条件に一致するアイテムに適用する 1 つ以上のタグを指定します。[Tags]フィールドをクリックして、使用可能なタグのリストから選択します。
Conditions	Veritas Information Classifier で一致として識別されるためにアイテムが満たす必要がある 1 つ以上の条件を指定します。 p.25 の「 ポリシー条件について 」を参照してください。

- 4 [Browse]をクリックし、ポリシーと一致するはずのアイテムを選択して、ポリシーをテストします。

しばらくすると、Veritas Information Classifier に、一致が存在するかどうかが表示されます。一致が見つかったら、[Show details]をクリックして一致するテキストと信頼度を確認します。

メモ: このテスト方法は、ポリシーが期待どおりに動作するかを確認するのに役立ちます。ただし、結果が正しいことを確認するために、1 つ以上のテストアイテムに対して PowerShell の cmdlet `Get-EVClassificationVICTags` を実行することをお勧めします。

p.78 の「[Get-EVClassificationVICTags](#)」を参照してください。

- 5 [Save]をクリックします。

ポリシー条件について

条件は、Veritas Information Classifier で一致と判断されるために、アイテムが満たす必要がある基準を指定します。ポリシーには任意の数の条件を含めることができます。

このトピックでは次の情報について説明します。

- 「条件の基本的なコンポーネント」
- 「カスタムフィールド」
- 「テキストの一致」
- 「正規表現の一致」
- 「パターンの一致」
- 「言語の一致」
- 「条件グループ」

条件の基本的なコンポーネント

すべての条件を次の基本的な形式で示す必要があります。

<プロパティ><演算子><値>

たとえば、次の条件の場合は、「Content」がプロパティ、「contains text」が演算子、「Stocks」が値になります。

The image shows a light blue rectangular box containing three elements. On the left is a white dropdown menu with the text 'Content' and a small downward arrow. In the middle is another white dropdown menu with the text 'contains text' and a small downward arrow. On the right is the text 'Stocks'.

プロパティは、評価するアイテムの部分または特性 (コンテンツ、タイトル、更新日、ファイルサイズなど) を指定します。リストからプロパティを選択すると、選択したプロパティに合わせて、他の 2 つのフィールドのオプションが変わります。たとえば、更新日プロパティを選択した場合、他のフィールドには、1 つ以上の日付を設定するためのオプションが表示されます。コンテンツ、タイトル、作成者などのプロパティを選択した場合は、次の演算子を使用できます。

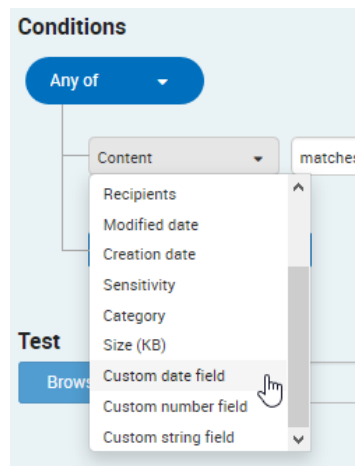
- contains text
- matches regex
- matches pattern
- language is

各条件の右側で、Veritas Information Classifier で一致と判断されるためにアイテムが基準を満たす必要がある最小回数を指定できます。

カスタムフィールド

組織で使用しているさまざまなアプリケーションにより、アイテムに対するカスタムプロパティ情報が追加されることがあり、これらの分類が必要になります。たとえば、Enterprise Vault がアイテムを処理する場合、アイテムのメタデータのプロパティに情報をポピュレートし、この情報をアーカイブ済みアイテムとともに格納します。情報とは、具体的には Enterprise Vault がアイテムをアーカイブした日付、付帯する添付ファイルの個数などです。

特に関心のあるプロパティの名前を知っている場合、ポリシー条件のカスタムフィールドとしてその名前を入力できます。



p.61 の「Enterprise Vault のプロパティについて」を参照してください。

テキストの一致

分類用に提出するアイテム内で特定の単語またはフレーズを検索する条件を設定する際には、次のガイドラインを確認してください。

- 複数の単語またはフレーズを検索するには、それぞれを個別の行に指定します。アイテムが条件を満たすには、リスト内に1つの単語またはフレーズのみを含める必要があります。
- 指定した単語またはフレーズに大文字と小文字の違いも含めて完全に一致するもののみを検索するには、[Match Case]を選択します。
- 指定した単語またはフレーズが他の単語やフレーズの一部である場合を検索するには、[String Match]を選択します。たとえば、このオプションを選択した場合、「enter」は、「enters」、「entertainment」、「carpenter」と一致します。このオプションを選択しない場合、「enter」は「enter」とのみ一致します。
同様に、[String Match]を選択した場合、「call me」というフレーズは、「call media」、「recall meeting」と一致しますが、「surgically mend」とは一致しません。
- 2つの単語間の近接演算子 NEAR と BEFORE は、同じ行で指定できます。たとえば、「tax NEAR/10 reform」は、「tax」と「reform」の間に10語以下のみ存在する場合に一致します。「sales BEFORE/5 report」は、「sales」が「report」の前にあり、これらの単語間に5語以下のみ存在する場合に一致します。どちらの場合も、数値が必須になります。

メモ: テーブルや表計算ワークシートなどのフォーマット済みデータを評価するときに、これらの近接演算子が予想どおりに機能しない可能性があります。このデータを分類する前に実行する変換処理は、表のセルの順序を入れ替える可能性があります。たとえば、表計算ワークシートのセルに **sales** という単語が含まれ、そのセルの右隣のセルに **report** という単語があるとします。これは、**sales BEFORE/5 report** 演算子と一致しますが、変換処理によりこれら2つの単語が入れ替えられて、表計算ワークシートが変換された後は一致しないことがあります。

- 単語とフレーズにはアスタリスク (*) と疑問符 (?) のワイルドカード文字を含めることができます。単語の一部としてアスタリスクを含めると、ゼロ個以上の文字と一致します。アスタリスクを単独で指定すると、1つの単語に一致します。疑問符 (?) は1文字に一致します。次に例を示します。
 - 「stock*」は、「stock」、「stocks」、「stockings」と一致します。
 - 「*ock」は、「stock」、「clock」と一致します。
 - 「*ock*」は、「stock」、「clocks」と一致します。
 - 「??ock」は、「stock」、「clock」と一致しますが、「dock」とは一致しません。
 - 「sell * stock」は、「sell the stock」、「sell some stock」と一致しますが、「sell stock」とは一致しません。

ワイルドカードを NEAR 演算子や BEFORE 演算子と組み合わせて使用できます。次に例を示します。

- 「s?I? BEFORE/1 stock*」は、「sold the stock」、「sell stocks」、「sale of stockings」と一致します。

正規表現の一致

正規表現 (regex) は、通常の文字 (a から z までの文字など) とメタ文字と呼ばれる特殊文字から成るテキストのパターンです。パターンとは、テキストを検索するときに照合する 1 つ以上の文字列です。たとえば、次の正規表現はすべての Visa カード番号で一連の数を照合します。

```
¥b4[0-9]{12}(?:[0-9]{3})?¥b
```

正規表現は Perl の正規表現の構文に従う必要があります。

この構文について詳しくは、Veritas Information Classifier のヘルプを参照してください。

<https://regex101.com> で入手できる無料のオンラインツールを使用して、正規表現を作成およびテストすると便利です。このツールでは、正規表現を入力するとその正規表現の説明が表示され、正規表現と入力したテスト文字列で一致するものがすべて一覧に表示されます。デフォルトの正規表現の種類である pcre (php) は、Veritas Information Classifier と互換性があります。

メモ: 正規表現との一致の検索は、特定の単語やフレーズを検索するよりもかなり時間がかかります。両方の種類の一致が互いに近接しているインスタンスを検索すると、パフォーマンスを大幅に向上させることができます。それには、正規表現の条件と特定の語句を検索する[次のテキストが含まれる]条件の両方を含む[すべて]という条件グループを設定して、必要な一致の近接度を指定します。Veritas Information Classifier は、最初に[次のテキストが含まれる]条件を評価して、次に正規表現の一致を検索します。

パターンの一致

パターンの一致では、選択されたアイテムプロパティを、既存の Veritas Information Classifier パターンと比較して評価します。選択したパターンによっては、受け入れる信頼度を設定できます。信頼度を高くすると、数は少ないが関連性のより高い一致が得られる可能性があります。

組み込みパターンを使用するポリシーをテストしたときに期待した結果を得られなかった場合は、次の点を確認してください。

- テストアイテムがパターンの信頼度を満たしていることを確認することが重要です。たとえば Credit Card Policy は、デフォルトでは中程度の信頼度または高い信頼度が設定されている「Credit/Debit Card Number」パターンと一致するコンテンツを検索

します。中程度の信頼度の要件を満たすには、コンテンツに次のいずれかが含まれている必要があります。

- 区切り文字で分けられたクレジットカード番号 (数値の間にスペースまたはダッシュが含まれている)
- 区切り文字で分けられていないクレジットカード番号と 1 つ以上のクレジットカードキーワード (AMEX、Visa など) の両方

区切り文字で分けられていないクレジットカード番号は含まれているが、クレジットカードキーワードが含まれていないアイテムは、要件を満たしていないことになります。

- [Show details] をクリックしてテスト結果を表示した後、[Test classification results] ウィンドウで一致の一部またはすべてがハイライトされないことがあります。これは、特定のパターンでのみ発生する既知の問題です。この問題は Veritas Information Classifier の今後のバージョンで修正される予定です。

言語の一致

ポリシーの照合を特定の言語のアイテムに制限する条件を設定できます。たとえば、主要な言語がフランス語であるアイテムを検索するには次のような条件を設定します。

The screenshot shows the 'Conditions' configuration window. At the top, there's a blue button labeled 'All of' with a dropdown arrow. Below it, a condition is defined: 'Content' (selected from a dropdown) 'language is' (selected from a dropdown) 'French' (selected from a list). The list of languages includes Chinese (Traditional), Danish, Dutch, English, Finnish, French, German, Greek, and Hindi. A hand cursor is pointing at 'French'. Below the condition list are two buttons: '+ Condition' and '+ Group'. At the bottom, there's a 'Test' section with 'Browse ...' and 'Select a file ...' buttons.

言語の一覧に [Multiple languages detected] というオプションがあります。このオプションは、2 つ以上の言語を含むアイテムと一致します。

主要な言語を特定できないためにアイテムが無視されるのを防ぐには、[Or Primary Language Unknown] を選択します。Veritas Information Classifier でアイテムの主要な言語を特定できない最も一般的な理由は、アイテムのコンテンツが非常に少ないことです。

条件グループ

条件のセットをグループ化し、その条件グループを他の条件グループ内に入れ子にすることができます。選択したグループ演算子によって、アイテムが一致と判断されるためにそのグループ内の条件のすべてを満たす必要があるか、一部を満たす必要があるか、どの条件も満たさない必要があるかが決まります。次のグループ演算子を使用できます。

- **All of**: アイテムは指定した条件すべてを満たす必要があります。
- **Any of**: アイテムは指定した条件の少なくとも 1 つを満たす必要があります。
- **None of**: アイテムは指定した条件のいずれも満たさない必要があります。

メモ: [All of]グループ内に[None of]グループを入れ子にして、特定の条件に一致し、特定の条件に一致しないものを除外する検索を行うことができます。たとえば、「(条件 X AND 条件 Y) BUT NOT 条件 Z」で適切な結果を得るには、[All of]グループに X 条件と Y 条件、入れ子にした[None of]グループに Z 条件を指定します。

- **n or more of**: アイテムは指定した数の条件を満たす必要があります。

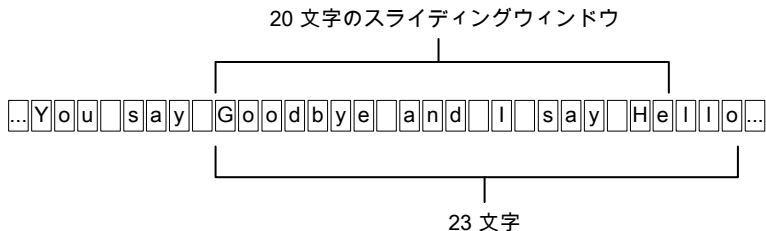
All of グループの場合にのみ、各条件が指定した文字数内に出現する場合を検索することができます。たとえば、次の条件グループでは、「Goodbye」という単語が「Hello」という単語の 20 文字以内に出現する場合を検索します。

The screenshot displays the configuration for an 'All of' condition group. At the top, a blue button labeled 'All of' is followed by two dropdown menus: 'within 20 characters' and 'from the first condition'. Below this, there are two identical condition blocks. Each block consists of a 'Content' dropdown menu, a 'contains text' dropdown menu, and a text input field. The first block's input field contains 'Hello', and the second block's input field contains 'Goodbye'. To the right of each input field are two checkboxes: 'Match Case' and 'String Match', both of which are currently unchecked.

テキスト文字列「You say Goodbye and I say Hello」は、「Hello」の最初の文字と「Goodbye」の最初の文字の間が 20 文字より少ないため、これらの条件と一致します。同様に、テキスト文字列「You say Hello and I say Goodbye」も、2 つの単語の終わりの間の文字数が 20 文字を下回るため、一致します。どちらの場合も、スペースが文字としてカウントされます。

メモ: [within *nn* characters] 近接検索を実行する場合は、同じ検索語を複数の条件で重複して使用しないように注意してください。たとえば、1 つ目の条件で「Fred」、「Sue」、「Bob」という名前を検索するように定義し、2 つ目の条件で「Joe」、「Bob」、「Sarah」を検索するように定義したとします。この場合、「Bob」の単一のインスタンスを含むアイテムが、これらの条件を満たすことになります。

[from the first condition] オプションを選択するのではなく、[in a sliding window] を選択できます。このオプションでは、指定した数の連続する文字列内で条件が一致する場合を探します。たとえば、「Goodbye」という単語が「Hello」という単語から連続した 20 文字内に出現する場合を検索する条件グループの場合、「You say Goodbye and I say Hello」は一致しません。「Goodbye」という単語の開始時点から「Hello」という単語の終了時点までが 23 文字あるためです。



ポリシーの有効化または無効化

最初は、すべてのポリシーが無効になっています。Veritas Information Classifier でポリシーと一致するアイテムを確認してタグを付ける場合は、ポリシーを有効にする必要があります。

メモ: 多数のポリシーを有効にすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。また、複雑な条件を持つポリシーは、単純な条件のポリシーよりも処理に時間がかかります。

ポリシーを有効化または無効化する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[Policies]をクリックします。
- 2 有効化または無効化する 1 つ以上のポリシーを選択し、[Edit]をクリックします。
複数のポリシーを一度に有効化または無効化できます。
- 3 [Status]フィールドで、[Enabled]または[Disabled]を選択します。
- 4 [Save]をクリックします。

ポリシーのエクスポートまたはインポート

Veritas Information Classifier は複数の Veritas 製品で使用できます。Veritas 製品が複数あり、製品間で同じポリシーを配布する場合、Veritas Information Classifier の 1 つのインスタンスからポリシーをエクスポートして、他のインスタンスにインポートできます。Veritas Information Classifier がポリシーをエクスポートする形式は **JSON (JavaScript Object Notation)** です。これは判読できる形式でデータを交換するための業界標準の形式です。

組み込みポリシーをエクスポートまたはインポートすることはできませんが、自分で作成したカスタムポリシーはエクスポートまたはインポートできます。

ポリシーをエクスポートする方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[ポリシー]をクリックします。
- 2 エクスポートする 1 つ以上のポリシーを選択し、[エクスポート]をクリックします。
ポリシーに関連付けられているカスタムパターンとカスタムタグも自動的にエクスポートされます。
- 3 エクスポートされた JSON ファイルを保存します。

ポリシーをインポートする方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[ポリシー]をクリックします。
- 2 [インポート]をクリックします。
- 3 インポートする JSON ファイルを選択します。

ポリシーのリセット

組み込みポリシーの編集で間違った処理をした場合、ポリシーをリセットして元の設定に戻すことができます。ただし、作成したカスタムポリシーはリセットできません。

ポリシーをリセットする方法

- 1 Veritas 情報分類子の左側の[Policies]をクリックします。
- 2 リセットするポリシーを選択して、[Reset]をクリックします。
- 3 [Yes]をクリックして、ポリシーをリセットすることを確定します。

ポリシーの削除

組み込みポリシーは削除できませんが、自分で作成したカスタムポリシーは削除できます。

ポリシーを削除する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[Policies]をクリックします。
- 2 削除するポリシーを選択して、[Delete]をクリックします。
- 3 [Yes]をクリックして、ポリシーを削除することを確定します。

パターンについて

ポリシーの条件で、Veritas Information Classifier が分類するアイテム内の 1 つ以上のパターンを検索するように指定できます。たとえば、「Ethics and Code of Conduct Policy」という組み込みポリシーの条件があります。

The screenshot shows a configuration window titled "Conditions". At the top, there is a blue button labeled "All of" with a dropdown arrow. Below this, there are two rows of conditions, each connected to the "All of" button by a vertical line. Each row contains three main components: a dropdown menu labeled "Content", a dropdown menu labeled "matches pattern", and a dropdown menu for a specific pattern. The first row's pattern dropdown is set to "Individual Communication". Below this pattern dropdown, there is a "confidence:" label followed by two dropdown menus: "High" and "Very High", with a "to" label between them. The second row's pattern dropdown is set to "Ethics & Code of Conduct". Below this pattern dropdown, there is a "confidence:" label followed by two dropdown menus: "High" and "Very High", with a "to" label between them.

各条件は、既存のパターン（「Individual Communication」または「Ethics & Code of Conduct」）に一致するアイテムのコンテンツを検索します。アイテムが両方のパターンに一致する場合、このアイテムはポリシーの条件を満たします。

Veritas Information Classifier に付属の組み込みパターンでは、高度なアルゴリズムを使用してパターン一致を検索し、信頼度を割り当てます。アイテムリストでパターンを選択して、信頼度の範囲を参照できます。たとえば、「Credit/Debit Card Number」パターンで、クレジットカード番号の形式に該当する数字の文字列が検出された場合の信頼度は低くなりますが、これらの数字に「AMEX」や「Visa」などのクレジット関連のキーワードが続く場合、信頼度は高くなります。ポリシーの作成または編集時に、これらのパターン一致に対して必要な信頼度を設定できます。

各組み込みパターンは、組み込みポリシーの少なくとも 1 つによって使われ、作成した任意のカスタムポリシー内のパターンに組み込むことができます。組み込みパターンでニーズが満たされない場合は、カスタムパターンを作成することもできます。しかし、これらのカスタムパターンでは、組み込みパターンほど高度な処理が可能でないことに留意する必要があります。

カスタムパターンは編集および削除が可能です。組み込みパターンの場合は編集や削除ができません。

パターンの作成または編集

組み込みパターンは編集できませんが、自分で作成したカスタムパターンは編集できます。

パターンを作成または編集する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の [Patterns] をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - パターンを作成するには、[New] をクリックします。
 - 既存のパターンを編集するには、パターンを選択して [Edit] をクリックします。
- 3 フィールドを次のように設定します。

Name	パターン名を指定します。名前は一意である必要があり、最大 100 個の英数字、スペース、および特殊文字を含めることができます。
------	---

Description	(オプション) Veritas Information Classifier に表示するパターンの簡単な説明を指定します。
-------------	---

Type	パターンの種類を指定します。 [Text] または [Regular expression] のパターンでは、検索対象の値を指定する必要があります。これらの値をポリシー条件に入力する場合と同じガイドラインが、パターン値としての入力時にも適用されます。
------	--

p.25 の「[ポリシー条件について](#)」を参照してください。

指定したテンプレートに類似するアイテムを検索するには、[Similar document] を選択します。たとえば、空白のフォームをテンプレートとして送信して、記入済みのフォームを検索できます。[Similar document] のパターンでは、[Text] と [Regular expression] のパターンとは異なり、ポリシー条件に組み込む際に必要な信頼度を設定できます。

類似文書機能を使用すると、テンプレート文書の段落、文、単語の追加、削除、並べ替えを行って作成された文書を検索できます。個々の単語が変更された例を検索することもできます。ただし、変更された単語が多くなると、一致を検出できる可能性が低くなります。

[Full] または [Section] のいずれかの類似モードを選択する必要があります。[Full] モードでは、テンプレート文書全体が他の文書全体と比較されます。テンプレート文書がところどころ変更されているが全体的なサイズに大きな影響はない例を検索する場合に便利です。[Section] モードでは、テンプレート文書の内容がより大きな文書の一部になっている例が検索されます。

テンプレート文書を送信するには、[Browse] をクリックし、目的の文書を選択します。

- 4 [Browse]をクリックし、ポリシーと一致するはずの文書を選択して、パターンをテストします。

しばらくすると、Veritas Information Classifier に、一致が存在するかどうかが表示されます。一致が見つかったら、[Show details]をクリックして一致するテキストと信頼度を確認します。
- 5 [Save]をクリックします。

パターンのエクスポートまたはインポート

ある Veritas Information Classifier 環境からカスタムポリシーとカスタムタグをエクスポートして別の環境にインポートできるのと同様に、カスタムパターンもエクスポートあるいはインポートすることができます。組み込みパターンをエクスポートまたはインポートすることはできません。

パターンをエクスポートする方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[パターン]をクリックします。
- 2 エクスポートする 1 つ以上のパターンを選択し、[エクスポート]をクリックします。
- 3 エクスポートされた JSON ファイルを保存します。

ポリシーをインポートする方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[パターン]をクリックします。
- 2 [インポート]をクリックします。
- 3 インポートする JSON ファイルを選択します。

パターンの削除

作成したカスタムパターンがポリシーのいずれかで使用されていない場合は、削除することができます。組み込みパターンは削除できません。

パターンを削除する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[Patterns]をクリックします。
- 2 削除するパターンを選択して、[Delete]をクリックします。
- 3 [Yes]をクリックして、パターンを削除することを確定します。

タグについて

Veritas Information Classifier の各ポリシーには、1 つ以上のタグが関連付けられています。分類のために送信したアイテムがポリシーの条件と一致すると、Veritas Information Classifier は関連付けられたタグをアイテムに割り当てます。たとえば、Veritas Information

Classifier は、組み込みポリシー「Ethics and Code of Conduct Policy」と一致するアイテムにタグ「Corporate-Ethics」を割り当てます。

タグを作成または編集するときに、以下を選択できます。

- [Index Property]。これは、タグを格納するアイテムのメタデータプロパティです。選択するプロパティにより、Veritas Information Classifier がタグを割り当てるアイテムが、Enterprise Vault でどのように処理されるかが決まります。たとえば、Enterprise Vault でアイテムが自動的に破棄されるかどうかを決定したり、Compliance Accelerator のレビューに含めるに値するほどアイテムが重要であるかどうかを決定できます。
- [Retention Category]。Veritas Information Classifier がアイテムにタグを割り当てると同時に、保持カテゴリも割り当てられます。保持カテゴリでは、アイテムを保持する最小期間を指定します。また、ユーザーにアイテムの手動削除を許可するかどうかや、保持期間の終了後にアイテムを Enterprise Vault で自動的に削除するかどうかも指定できます。
デフォルトでは、組み込みタグには保持カテゴリは関連付けられていません。保持カテゴリにタグを関連付ける場合は、タグの編集が必要です。

タグの作成または編集

Veritas Information Classifier には、組み込みタグが多数付属していますが、組み込みのタグではニーズが満たされない場合にはカスタムのタグを作成できます。

タグを作成または編集する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の [Tags] をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - タグを作成するには、[New] をクリックします。
 - 既存のタグを編集するには、タグを選択して [Edit] をクリックします。
- 3 フィールドを次のように設定します。

Tag	タグ名を指定します。名前は一意である必要があり、最大 30 個の英数字、スペース、および特殊文字を含めることができます。ただし、名前に次の文字を含めることはできません。 & : / ¥ % + < > ? 既存のタグを編集する場合、名前は変更できません。
Description	(オプション) Veritas Information Classifier に表示するタグの簡単な説明を指定します。

Index Property	<p>タグを格納するアイテムのメタデータプロパティを指定します。4 つのインデックスプロパティから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ [evtag.category]。アイテムに 1 つ以上のカテゴリを割り当てます。■ [evtag.exclusion]。Enterprise Vault Compliance Accelerator がこのプロパティを含むアイテムをサンプリングしないようにします。■ [evtag.inclusion]。Enterprise Vault Compliance Accelerator がこのプロパティを含むアイテムをサンプリングするようにします。■ [evaction.discard]。削除するアイテムをマーク付けします。 <p>p.38 の「Enterprise Vault のインデックスプロパティについて」を参照してください。</p> <p>Enterprise Vault 検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションに割り当て済みのプロパティ値を検索できます。</p>
Retention Category	<p>このタグの割り当て対象アイテムに割り当てる保持カテゴリを指定します。これは、evaction.discard をインデックスプロパティとして指定した場合を除き、省略可能です。</p> <p>p.39 の「分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用」を参照してください。</p> <p>p.40 の「保持カテゴリの設定に関する注意事項」を参照してください。</p>

4 [Save]をクリックします。

タグのエクスポートまたはインポート

ある Veritas Information Classifier 環境からカスタムポリシーとカスタムパターンをエクスポートして別の環境にインポートできるのと同様に、カスタムタグもエクスポートしてインポートすることができます。組み込みタグをエクスポートまたはインポートすることはできません。

タグをエクスポートする方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[タグ]をクリックします。
- 2 エクスポートする 1 つ以上のタグを選択し、[エクスポート]をクリックします。
- 3 エクスポートされた JSON ファイルを保存します。

タグをインポートする方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[タグ]をクリックします。
- 2 [インポート]をクリックします。
- 3 インポートする JSON ファイルを選択します。

Enterprise Vault のインデックスプロパティについて

定義した Veritas Information Classifier ポリシーにアイテムが一致すると、Enterprise Vault でアイテムのメタデータプロパティに、一致することが記録されます。選択したプロパティと Enterprise Vault が割り当てたタグによって、Enterprise Vault がアイテムに対して実行する処理が決まります。Enterprise Vault 検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションに割り当て済みのタグを検索できます。

表 3-1 での説明のとおり、Enterprise Vault は 4 つの事前定義済みプロパティに保存されているタグのみを処理できます。

表 3-1 分類のための Enterprise Vault インデックスプロパティ

プロパティ	説明
evtag.category	このプロパティは、Enterprise Vault にアイテムを追加するとアイテムに 1 つ以上のカテゴリ値を割り当てます。たとえば、北米の電話番号や住所など、米国で使用される個人識別情報を含んでいるアイテムにカテゴリ値「US-PII」を割り当てる場合などに使用できます。
evtag.exclusion	Enterprise Vault Compliance Accelerator を使う環境では、Enterprise Vault がこのプロパティで分類したアイテムを無視するようにそのアプリケーションのランダムサンプリング機能に指示します (ただし、必要に応じて Compliance Accelerator ユーザーは分類されたアイテムを検索してレビューセットに追加できます)。 たとえば、自動生成されたニュースフィード、寄付勧誘、その他の重要でないアイテムを Compliance Accelerator レビューセットから除外するためにこのプロパティを使用できます。
evtag.inclusion	Enterprise Vault Compliance Accelerator を使う環境では、Enterprise Vault がこのプロパティで分類したアイテムをキャプチャするようにそのアプリケーションのランダムサンプリング機能に指示します。最良の結果を得るには、このプロパティを選択して Compliance Accelerator がランダムサンプリングで過剰な数のアイテムを検出しないようにします。 たとえば、企業秘密アイテムと金融データまたは法的データを含むアイテムを Compliance Accelerator レビューセットに含めるためにこのプロパティを使用できます。

プロパティ	説明
evaction.discard	<p>アイテムのこのプロパティに保持カテゴリの名前を割り当てると、削除するアイテムとしてマーク付けできます。</p> <p>このようなアイテムが Enterprise Vault でどのように扱われるかは、アイテムの分類が行われた時点によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インデックス付けの間の場合。Enterprise Vault がアイテムにインデックスを付けたときにアイテムが分類されると、Enterprise Vault は Veritas Information Classifier で選択した保持カテゴリをアイテムに割り当てます。アイテムは検索されなくなりますが、一定の日数の間はアイテムを回復できます。これは、Enterprise Vault サイトのアーカイブ設定でユーザーが削除したアイテムの回復を無効に設定している場合でも適用されます。 ■ 自動期限切れの場合。保持期間が切れたためにアイテムが分類される場合、Enterprise Vault はただちにアイテムを削除します。 ■ ユーザーによる削除の場合。ユーザーがアイテムを削除しようとしたためにアイテムが分類される場合は、Enterprise Vault サイトのアーカイブ設定に応じて、アイテムはすぐに削除されるか、または一時的に復旧可能になります。 <p>このプロパティによって、evtag.inclusion などのその他の分類プロパティが上書きされます。そのため、1 つの Veritas Information Classifier ポリシーでアイテムに削除マークが付けられている場合は、2 番目のポリシーによって Compliance Accelerator レビューセットに含めるようにタグが付けられている場合でも、そのアイテムは削除されます。</p> <p>たとえば、リーガルホールドのため削除できないアイテムもあります。この場合は、分類機能がアイテムの保持カテゴリを更新しますがアイテムは削除されません。</p>

4 つのプロパティのそれぞれに複数のタグを割り当てることができます。たとえば、組み込みの **Veritas Information Classifier** ポリシーで処理した電子メールの **evtag.category** プロパティに 2 つの値 (「**Intellectual-Property**」と「**Corporate-Ethics**」) を割り当てて、この電子メールに、知的財産のソースコードと企業の行動規範から外れた条項の両方が含まれる可能性があることを示すことができます。**evaction.discard** プロパティにも複数のタグを割り当てることができますが、**Enterprise Vault** は最初に割り当てられたタグしか使用しないため、このプロパティは多少異なります。

分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用

次の条件の両方が満たされると、**Enterprise Vault** はアイテムが **Veritas** 情報分類子ポリシーに一致するときにそのアイテムの保持カテゴリを更新します。

- アイテムの保持カテゴリを設定する **Enterprise Vault** 分類ポリシーを設定している。
p.43 の「**Enterprise Vault 分類ポリシーについて**」を参照してください。

- **Veritas** 情報分類子ポリシーがアイテムに割り当てるタグを使用して、保持カテゴリに関連付けてある。

たとえば、**Veritas** 情報分類子には、「認証」と呼ばれる組み込みタグがあります。デフォルトでは、このタグは認証ポリシーに一致するすべてのアイテムに割り当てられます。**Veritas** 情報分類子で認証タグの詳細を編集すると、認証タグと保持カテゴリに関連付けられます。その結果、アイテムが認証ポリシーに一致した場合、認証タグとそれに関連付けられた保持カテゴリが、そのアイテムに割り当てられます。

保持カテゴリの作成方法について詳しくは、管理者ガイドを参照してください。

アイテムが複数の **Veritas** 情報分類子ポリシーに一致するため、これらのすべてのポリシーが、そのアイテムへの保持カテゴリの割り当てを巡って競合する場合があります。この場合、分類機能で次のように優先する保持カテゴリが選択されます。

- **Capstone** または同等のレコード管理システムを実装するために、保持カテゴリでアイテムをレコードとしてマーク付けすると、アイテムをレコードとしてマーク付けしていない他の保持カテゴリよりも優先されます。アイテムを永続レコードとしてマーク付けする保持カテゴリは、一時レコードとしてマーク付けする保持カテゴリよりも優先します。また、それらは他のあらゆる種類のレコードとしてアイテムをマーク付けする保持カテゴリよりも優先します。

レコード管理での **Enterprise Vault** の使用について詳しくは、『**Veritas Enterprise Vault** 管理者ガイド』を参照してください。

- 競合する保持カテゴリでアイテムの保持期間をまったく同じにする場合は、最初に作成した保持カテゴリが優先されます。たとえば、保持カテゴリ「**Customer Accounts**」および「**Legal**」の両方の保持期間が **5 年**であるとします。「**Legal**」カテゴリを作成する前に「**Customer Accounts**」カテゴリを作成していた場合、「**Customer Accounts**」カテゴリを割り当てるポリシーによって「**Legal**」カテゴリを割り当てるポリシーが上書きされます。

- 保持期間が異なる場合は、デフォルトの動作として、最も長い保持期間がアイテムの保持カテゴリに割り当てられます。たとえば、通常、アイテムを **7 年間**保持する保持カテゴリによって **5 年間**保持する保持カテゴリが上書きされます。ただし、この動作を変更して、最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てることができます。

p.46 の「**最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てる分類ポリシーの設定**」を参照してください。

保持カテゴリの設定に関する注意事項

分類機能によってアイテムの保持カテゴリを設定する場合、次の重要な点に注意してください。

- 保持カテゴリを設定して、そのカテゴリが割り当てられたアイテムの自動削除またはユーザーによる削除を防ぐと想定します。

保持カテゴリプロパティ - デフォルトの保持カテゴリ

全般 詳細 レコード

この保持カテゴリを有するアイテムを保持する期間を選択します。

保持

☒ 期間(P) 6 年

開始日: サイト設定から継承

☐ 固定有効期限(F)

☐ アイテムを無期限で保持(R)

設定

☐ このカテゴリの期限切れのアイテムが自動的に削除されないようにする(E)

☐ このカテゴリのアイテムがユーザーによって削除されないようにする(U)

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

ユーザーがアイテムを削除する、または **Enterprise Vault** がその期限切れを実行するときに、分類機能によってそのアイテムにこのカテゴリが割り当てられる場合、その処理が遮断されます。

- デフォルトでは、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを変更する操作を実行したときに、**Enterprise Vault** は保持カテゴリを更新します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に **Enterprise Vault** 検索でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。これを防止するには、**Enterprise Vault** 分類ポリシーを定義するときに、[ユーザーアクションによる保持カテゴリの更新を禁止]オプションを選択します。

p.43 の「**Enterprise Vault** 分類ポリシーについて」を参照してください。

ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする **Enterprise Vault** 分類ポリシーを使わない場合は、[サイトプロパティ]ダイアログボックスの[アーカイブの設定]タブで選択したオプションに従って更新が続行されます。

- **Discovery Accelerator** などのアプリケーションでアイテムをリーガルホールドにした場合は、このアイテムをユーザーが削除しようとしたり **Enterprise Vault** が期限切れにしようとする **Enterprise Vault** はアイテムを分類するために送信しません。そのため、分類機能はこのようなアイテムの保持カテゴリを更新できません。ただし、アイテムにインデックス付けしてアーカイブすると分類機能はこのようなアイテムの保持カテゴリを更新できます。

- Enterprise Vault が WORM ストレージデバイスにアーカイブしたアイテムを分類機能で分類するときに、アイテムの有効期限を変更する新しい保持カテゴリが適用される場合があります。この場合、Enterprise Vault は 2 つの日付の遅い方でアイテムを期限切れにします。
たとえば、分類機能によって遅い方の有効期限を設定する保持カテゴリが適用される場合、Enterprise Vault はこの新しい、遅い方の日付を適用します。一方、新しい保持カテゴリによって早い方の有効期限が設定される場合、Enterprise Vault では元の遅い方の日付が採用されます。

タグの削除

組み込みタグは削除できませんが、自分で作成したカスタムタグは削除できます。ただし、そのタグがポリシーで使用されていないことを最初に確認する必要があります。

タグを削除する方法

- 1 Veritas Information Classifier の左側の[Tags]をクリックします。
- 2 削除するタグを選択して、[Delete]をクリックします。
- 3 [Yes]をクリックして、タグを削除することを確定します。

Enterprise Vault 分類ポリシーの定義と適用

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault 分類ポリシーについて](#)
- [分類ポリシーの定義](#)
- [分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)
- [分類プロパティと保持計画の関連付け](#)
- [保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)
- [Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用](#)

Enterprise Vault 分類ポリシーについて

Enterprise Vault 分類ポリシーでは、Enterprise Vault サイトで実装する分類機能の範囲を指定します。分類ポリシーを使うことで、次の操作を実行するように選択できます。

- アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテム进行分类。このオプションを選択すると、Enterprise Vault は分類の目的でアイテムを送信し、その結果をアイテムにタグ付けします。それと同時に、アイテムのインデックスを作成して、アーカイブします。Enterprise Vault は Veritas Information Classifier ポリシーに従ってアイテムに `evtag.category`、`evtag.exclusion`、`evtag.inclusion` 値をタグ付けします。Compliance Accelerator や Discovery Accelerator などのアプリケーションのユーザーは、検索やレビューを行うときに分類値を使ってアイテムをフィルタ処理できます。

Enterprise Vault がいつアイテム进行分类するかは、分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするか、標準のボルトストアパーティションに分類するかによって、次のように決まります。

- スマートパーティションを使用するように選択した場合、Enterprise Vault はアーカイブのタイミングでアイテム进行分类します。
- スマートパーティションを使用しないことを選択した場合、Enterprise Vault はインデックス付けのタイミングでアイテム进行分类します。

両方のケースで、アーカイブまたはインデックスボリュームのインデックスの再構築を実行する場合は、Enterprise Vault によって以前に適用された分類タグは破棄され、代わりに新しい分類タグが適用されます。再構築中も古いインデックスボリュームは引き続き検索可能であるため、このプロセスはユーザーに影響しません。

メモ: 分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはありません。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。

たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。

- アイテムの保持カテゴリを設定。この処理を行うように選択すると、Veritas Information Classifier ポリシーにアイテムが一致したとき、Enterprise Vault はポリシーに関連付けられた保持カテゴリをアイテムに割り当てます。

p.39 の「分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用」を参照してください。

- ユーザーアクションによる保持カテゴリの更新を禁止。デフォルトでは、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを変更する操作を実行したときに、Enterprise Vault は保持カテゴリを更新します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。ただし、Enterprise Vault 分類ポリシーを使うと、ポリシーが適用されるアーカイブ内でこのような保持カテゴリが更新されないようにすることができます。

すべてのインスタンスで保持カテゴリの更新を禁止できます。また、Enterprise Vault レコード管理機能を使用すると、インスタンスで保持カテゴリの更新を許可できますが、アイテムのレコードの種類も変更されます。

- アーカイブ時やインデックスの作成時にアイテム进行分类するように選択している場合は、アーカイブ時やインデックスの作成時に分類機能によって保持カテゴリがアイテムに割り当てられます。このような場合、分類機能の保持カテゴリによって保持計画の保持カテゴリが上書きされます。次の追加オプションを使うと、分類機能によってアイテムの保持カテゴリを設定する方法を細かく制御できます。

- ユーザーによる削除このオプションを実装した場合、ユーザーがアイテムを削除しようすると、分類機能によってこのアイテムが分類されます。場合によっては、この操作をブロックする保持カテゴリが分類機能によって割り当てられるため、アイテムが破棄されなくなることがあります。
- 自動期限切れこのオプションを実装した場合、保持期限を過ぎると、分類機能によってこのアイテムが分類されます。ユーザーによる削除と同様に、削除をブロックするか、アイテムの保持期限を延長する保持カテゴリが分類機能によって割り当てられるため、アイテムが破棄されなくなることがあります。

分類ポリシーの定義

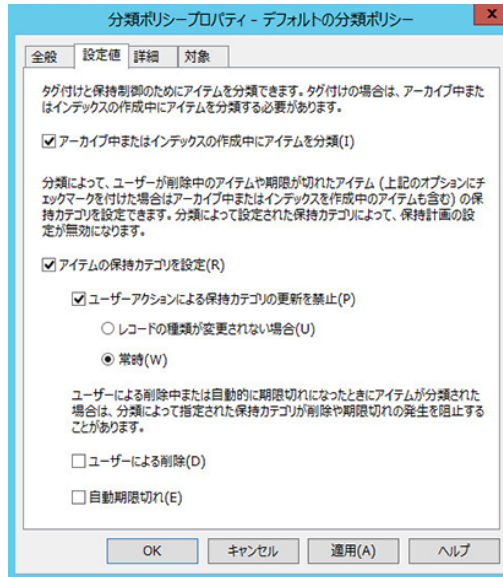
Enterprise Vault にはデフォルトの分類ポリシーが用意されています。必要に応じてこのポリシーを修正できますが、1 つ以上のカスタムポリシーを定義することもできます。異なるコンテンツソースに対して異なるポリシーを実装する場合は、カスタムポリシーの定義が必要になる場合があります。たとえば、ファイルシステムのアイテムに対する分類の必要条件は、**Exchange** メールボックスアイテムの必要条件とは異なることがあります。その場合は、各コンテンツソースについて分類ポリシーを定義して、1 つはファイルシステムアーカイブを対象とし、もう一方は **Exchange** メールボックスアーカイブを対象とする 2 つのポリシーを異なる保持計画に割り当てることができます。

次の手順では、管理コンソールを使って分類ポリシーを定義する方法を説明します。ただし、**PowerShell** コマンドレットで同じ操作を実行することもできます。

p.47 の「[分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)」を参照してください。

デフォルトの分類ポリシーのプロパティを表示および修正する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [分類]コンテナをクリックします。
- 4 右ペインで[デフォルトの分類ポリシー]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 5 必要に応じて設定を修正します。



- 6 [OK]をクリックして変更内容を保存します。

カスタム分類ポリシーを定義する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [分類]コンテナを右クリックして、[新規作成]をポイントして[ポリシー]をクリックします。
[新規分類ポリシー]ウィザードが表示されます。
- 4 画面に表示される指示に従います。

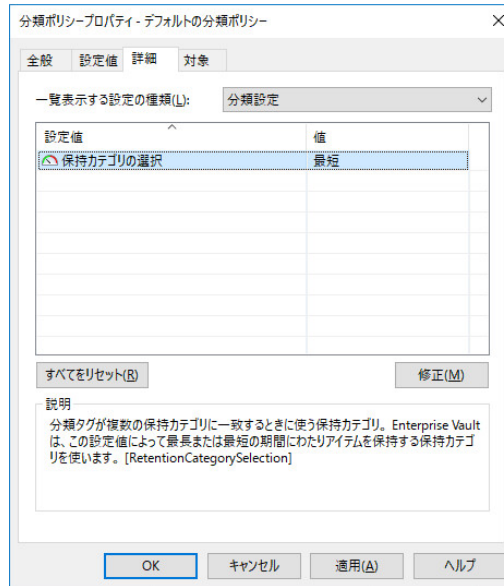
最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てる分類ポリシーの設定

分類ポリシー用に選択できる設定の 1 つは、アイテムの保持カテゴリの設定です。アイテムが複数の Veritas 情報分類子ポリシーに一致してしまい、これらのすべてのポリシーが、そのアイテムへの保持カテゴリの割り当てを巡って競合する場合があります。デフォルトでは、Enterprise Vault は、最も長期間アイテムを保持する保持カテゴリを割り当てます。この割り当てが適切でない場合は、最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てるように分類ポリシーを設定できます。

最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てるように分類ポリシーを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。

- 3 [分類]コンテナをクリックします。
- 4 右ペインで変更する分類ポリシーを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 5 [詳細]タブで、[保持カテゴリの選択]オプションを[最短]に設定します。



分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault は分類ポリシーの作成や修正で使えるいくつかの PowerShell cmdlet が付属しています。これらのコマンドレットは管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 4-1 分類ポリシーの作成や修正のための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVClassificationPolicy	Enterprise Vault サイトで設定されているすべての分類ポリシーの一覧を返します。 p.73 の「 Get-EVClassificationPolicy 」を参照してください。

cmdlet	説明
New-EVClassificationPolicy	分類ポリシーを作成します。 p.82 の「 New-EVClassificationPolicy 」を参照してください。
Remove-EVClassificationPolicy	指定した分類ポリシーが使用中でなければ削除します。 p.86 の「 Remove-EVClassificationPolicy 」を参照してください。
Set-EVClassificationPolicy	既存の分類ポリシーのプロパティを設定または更新します。 p.87 の「 Set-EVClassificationPolicy 」を参照してください。

分類プロパティと保持計画の関連付け

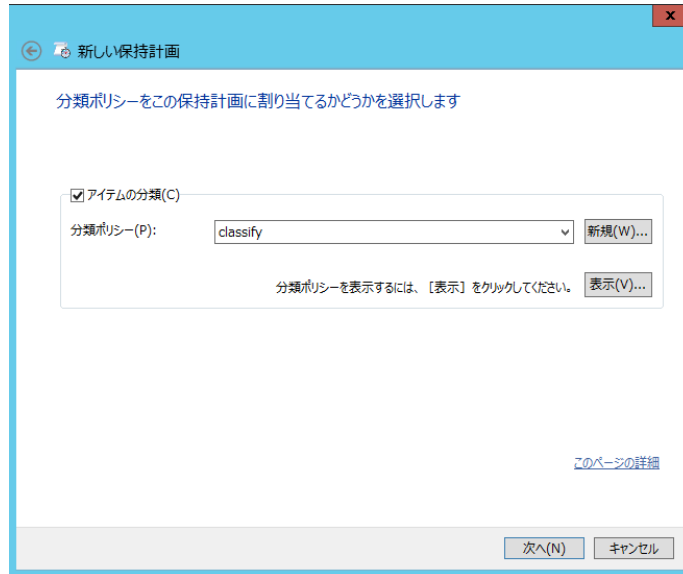
保持計画は分類ポリシーを Enterprise Vault アーカイブに割り当てるための手段を提供します。それぞれの分類ポリシーを 1 つ以上の保持計画に割り当てて、各計画を 1 つ以上のアーカイブに適用します。この操作により、Enterprise Vault では関連付けた分類ポリシーに基づいてアーカイブ内のアイテムが処理されます。保持計画の設定方法について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

次の手順では、管理コンソールを使って分類ポリシーを保持計画に関連付ける方法について説明します。ただし、PowerShell コマンドレットで同じ操作を実行することもできます。

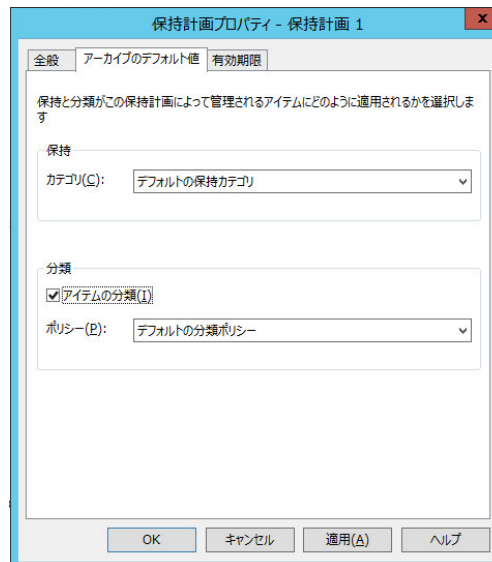
p.50 の「[保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)」を参照してください。

分類ポリシーと保持計画を関連付ける方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでツリー表示を展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - 保持計画をまだ作成していない場合は、[計画]コンテナを右クリックし、[新規作成]をポイントして[計画]をクリックします。
[新しい保持計画]ウィザードが表示されます。保持計画の作成手順の一環として、[アイテムの分類]オプションを選択してから、必要な分類ポリシーを選択する必要があります。



- 分類ポリシーを既存の保持計画に関連付けるには、[計画]コンテナをクリックして、右側にある必要な計画をダブルクリックします。
[保持計画プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。アイテムを分類して、必要な分類ポリシーを選択するためのオプションは、このダイアログボックスの[アーカイブのデフォルト値]タブにあります。



いずれの場合でも、保持カテゴリをアイテムに割り当てるときに分類機能によって保持計画が上書きされます。

保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault は保持計画の作成や修正で使えるいくつかの PowerShell cmdlet が付属しており、これらによって、それらの計画に関連付けられた分類オプションも同時に変更できます。これらのコマンドレットは管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 4-2 保持計画の作成や修正のための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVRetentionPlan	Enterprise Vault サイトで構成したすべての保持計画の一覧を返します。計画に関連付けられた分類ポリシーを含む、さまざまなプロパティによって一覧をフィルタ処理できます。
New-EVRetentionPlan	保持計画を作成して、その計画に関連付ける分類ポリシーを指定します。
Remove-EVRetentionPlan	指定した保持計画が使用中でない場合は、削除します。
Set-EVRetentionPlan	関連付けられた分類ポリシーなど、既存の保持計画のプロパティを設定または更新します。

これらの cmdlet について詳しくは『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用

分類ポリシーを定義し終えたら、それに保持計画を関連付けて、1 つ以上のアーカイブに計画を適用します。保持計画を次の機能のいずれかに関連付けることができるため、管理コンソールにはこれを行うための多数の方法が用意されています。

- Exchange、Domino、または IMAP プロビジョニンググループ
- Exchange ジャーナルアーカイブ、Domino ジャーナルアーカイブ、または SMTP アーカイブ
- FSA ボリュームまたはフォルダポリシー
- パブリックフォルダの対象
- SharePoint 対象またはサイトコレクション

- メールボックスの有効化ウィザードを実行することによってアーカイブを手動で有効にするメールボックス。

これらの各機能のドキュメントで、保持計画を適用する方法が説明されています。

PowerShell cmdlet の `Set-EVArchive` で、選択したアーカイブに保持計画を適用することもできます。詳しくは『PowerShell cmdlet』ガイドを参照してください。

保持計画を目的の機能に関連付けた後、対象のアーカイブへの変更を適用するための適切なアーカイブタスクを実行する必要があります。たとえば、IMAP プロビジョニンググループの場合のクライアントアクセスプロビジョニングタスクまたは SharePoint サイトコレクションの場合の SharePoint アーカイブタスクです。

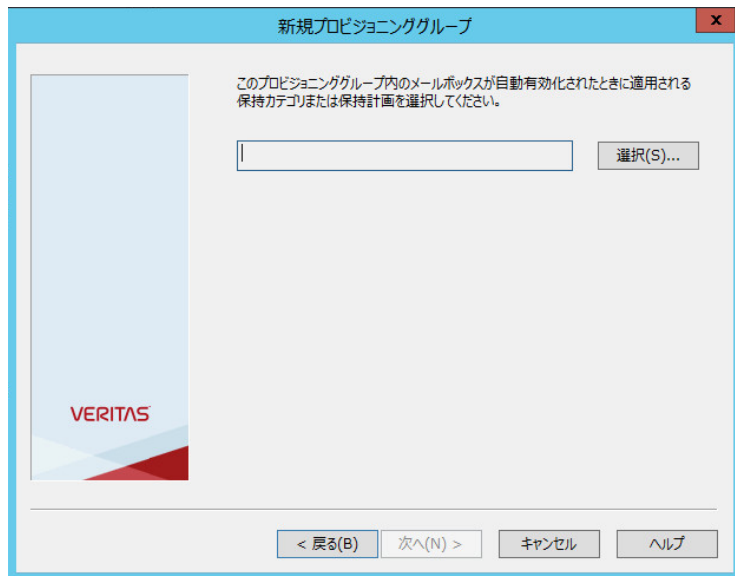
例として、次の手順で新しい Exchange プロビジョニンググループの設定時に保持計画を選択する方法が説明されています。

保持計画を Exchange プロビジョニンググループに関連付けるには

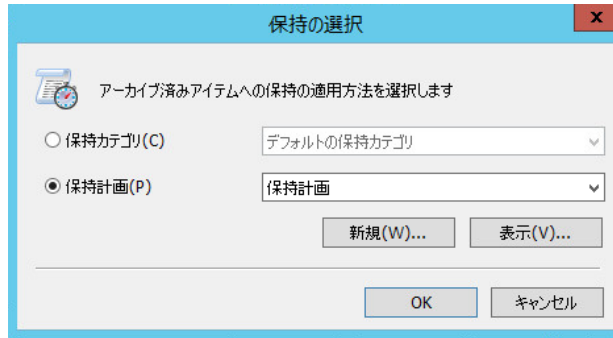
- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[対象]コンテナを表示します。
- 2 Exchange ドメインを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]コンテナを右クリックして、[新規]をポイントして[プロビジョニンググループ]をクリックします。

新規プロビジョニンググループウィザードが表示されます。

- 4 必要な保持カテゴリまたは保持計画を指定するように求めるメッセージが表示されるまで、ウィザードを実行します。



- 5 [選択]をクリックして、[保持の選択]ダイアログボックスを開きます。



- 6 必要な保持計画を選択するか、[新規]をクリックして新しい保持計画を作成します。
- 7 ウィザードの残りのページを実行します。
- 8 **Exchange** プロビジョニングタスクを実行し、保持計画を対象アーカイブに適用します。
- 9 メールボックスを同期します。これを行うには、**Exchange** メールボックスアーカイブタスクのプロパティダイアログボックスを開き、[同期]タブの[同期]をクリックします。

テストモードでの分類の実行

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類テストモードについて](#)
- [分類テストモードの実装](#)
- [テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について](#)
- [分類テストモードレポートについて](#)

分類テストモードについて

テストモードで分類機能を実行することで、Veritas 情報分類子ポリシーを有効化する前に情報分類子ポリシーの問題を特定して解決できます。テストモードで分類できない場合は次の方法で分類します。

- Enterprise Vault は、分類プロパティ、その値、結果の保持の変更をアーカイブ済みアイテムに適用せずにアイテムにインデックスを付けます。ただし、分類情報を格納してテストモードのレポートで確認できます。
- ユーザーが手動でアーカイブ済みアイテムを検出する場合や Enterprise Vault が保持期間が切れたアイテムを自動的に検出する場合には、アイテムは通常どおりに検出されます。ただし、分類の結果として処理を阻止したかどうかをテストモードのレポートに示します。たとえば、アイテムの保持期間を延長したり、手動削除や自動期限切れを阻止する保持カテゴリを適用する場合がこのケースに当てはまります。

テストモードのレポートは、期待どおりに機能しない Veritas 情報分類子ポリシーを識別するのに役立ちます。ポリシーが期待どおりに機能しない場合は、ポリシーを修正して、満足した結果が得られるまでテストを再実行します。

分類テストモードの実装

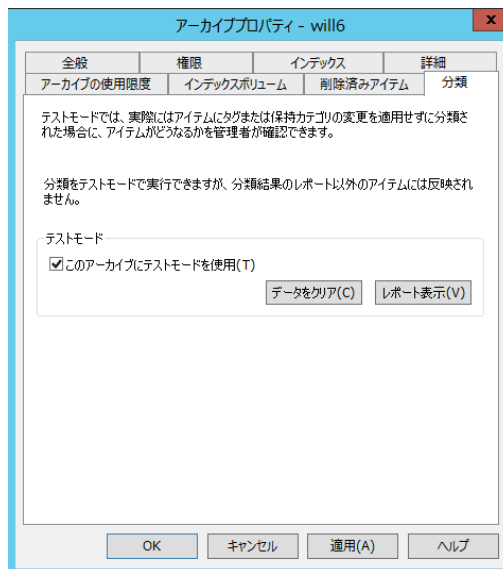
分類テストモードは個々のアーカイブに対して実施します。関連付けられた分類ポリシーを持つ保持計画を割り当てたアーカイブのみがテストモードの対象になります。

次の手順では、管理コンソールを使ってアーカイブで分類テストモードを実装する方法を説明します。ただし、PowerShell コマンドレットで同じ操作を実行することもできます。

p.55 の「[テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について](#)」を参照してください。

分類テストモードを実装するには

- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[アーカイブ]コンテナを表示します。
- 2 分類テストモードを実施するアーカイブを特定して右クリックします。
- 3 そのアーカイブのプロパティダイアログボックスで、[分類]タブをクリックします。
- 4 [このアーカイブにテストモードを使用]を選択します。



- 5 [OK]をクリックして変更内容を保存します。
- 6 [分類]ページに戻って[レポート表示]をクリックしてデフォルトの Web ブラウザでレポートを開きます。必要に応じて、ブラウザの機能を使ってレポートを保存できます。
- 7 アーカイブのテストモードを無効にしてアーカイブ済みアイテムを再び分類する場合は、[再構築]ウィザードでインデックスボリュームを再構築します。(再構築中も古い

インデックスボリュームは引き続き検索可能であるため、このプロセスはユーザーに影響しません。)インデックス付けの実行中にアイテムを分類する分類ポリシーを設定した場合には Enterprise Vault はインデックスの再構築の一環としてアイテムを再分類します。[再構築]ウィザードについて詳しくは『Veritas Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

テストモードを無効にした後や分類ポリシーからアーカイブの関連付けを解除した後もレポートデータは vault store database に残ります。このデータベースを削除するには、[分類]ページで[データをクリア]をクリックします。

テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault はテストモードで分類を実行するための 2 つの PowerShell cmdlet が付属しています。これらの cmdlet は管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 5-1 テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVClassificationTestMode	分類機能が処理対象アーカイブにおいてテストモードで動作しているかどうかを報告します。 p.77 の「 Get-EVClassificationTestMode 」を参照してください。
Set-EVClassificationTestMode	処理対象アーカイブの分類テストモードの有効と無効を切り替えます。 p.90 の「 Set-EVClassificationTestMode 」を参照してください。

分類テストモードレポートについて

表 5-2 が示すとおり、分類テストモードレポートには複数のセクションがあります。

表 5-2 分類テストモードレポートの内容

本項	表示内容
分類の概略	テストモードでアーカイブしたときに Enterprise Vault が分類したアイテムの数。概略には、Enterprise Vault が分類に失敗したアイテムの数も示されます。

本項	表示内容
ルールとの一致	アイテムが一致する Veritas Information Classifier ポリシーと各ケースにおけるアイテム数。
タグの適用の提案	Enterprise Vault がアイテムに割り当てる分類プロパティ値と各ケースにおけるアイテム数。
スマートパーティション	Enterprise Vault がアイテムをアーカイブするスマートパーティションと各ケースにおけるアイテム数。
保持カテゴリ	別の保持カテゴリを割り当てる Veritas Information Classifier ポリシーに一致するために、保持カテゴリが変更されるアイテム数。
保持に提案された変更	<p>Enterprise Vault によって修正、延長または短縮される保持期間を持つアイテムの数。修正したアイテムの数は、延長または短縮した保持期間のアイテムの合計と同じにならないことがあります。たとえば、元の保持カテゴリと同じ保持期間を設定した新しい保持カテゴリを取得するアイテムもあります。</p> <p>このセクションには、Enterprise Vault がアイテムを分類すると期限切れの対象になるアイテムの数も表示されます。</p>
遮断された削除	分類時に保持カテゴリを再評価するため、 Enterprise Vault によって自動期限切れまたはユーザーによる削除が遮断されたアイテムの数。遮断された削除が存在しない場合は、レポートではこのセクションが省略されます。

スマートパーティションを使用した分類

この章では以下の項目について説明しています。

- [スマートパーティションについて](#)
- [Enterprise Vault がアイテムをスマートパーティションにアーカイブするかどうかを決める方法](#)
- [スマートパーティションの設定](#)
- [Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされたことの確認](#)

スマートパーティションについて

以前のバージョンの Enterprise Vault では、ストレージデバイスの単一のオープンボルトストアパーティションにすべてのアイテムをアーカイブしていました。Enterprise Vault 12.3 以降では、Enterprise Vault のアイテムの分類方法に応じて、各種のアイテムをさまざまなパーティションにアーカイブできます。たとえば、個人識別情報 (PII) を含んでいるアイテムを検出してタグを付けるように分類エンジンを設定した場合は、これらのアイテムを 1 つのパーティションにアーカイブするように選択できます。入札やビジネスの提案など、他の種類のアイテムを別のパーティションにアーカイブできます。

これらの分類関連のパーティションは、スマートパーティションと呼ばれます。このパーティションは、以下の点を除き、標準のボルトストアパーティションと同じです。

- Vault 管理コンソールを使用すると、選択した分類エンジン (Veritas Information Classifier または Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ) で定義した 1 つ以上の分類タグとスマートパーティションを関連付けることができます。選択したタグを分類エンジンが割り当てたアイテムのみが、スマートパーティションにアーカイブされます。

- 複数のスマートパーティションをアーカイブ用に同時に開くことができます。これは、標準のボルトストアパーティションには当てはまりません。標準のボルトストアパーティションでは、各ボルトストアで開くことができるパーティションは 1 つに限られます。
- 特定の基準が満たされると、Enterprise Vault が次の使用可能なパーティションに自動的にロールオーバーするように、標準のボルトストアパーティションを設定できます。このロールオーバー機能は、スマートパーティションでは利用できません。

標準のボルトストアパーティションでは、Enterprise Vault がサポートする任意のストレージデバイス上にスマートパーティションを作成できます。

Enterprise Vault がアイテムをスマートパーティションにアーカイブするかどうかを決める方法

使用環境に、標準のボルトストアパーティションとスマートパーティションの両方を含めることができます。次の条件のいずれかが該当する場合、Enterprise Vault は、スマートパーティションではなく、開いている標準のボルトストアパーティションにアイテムをアーカイブします。

- ターゲットアーカイブで分類を有効にしていない。
- ターゲットアーカイブで分類をテストモードで実行するように選択した。
- 分類エンジンがアイテムにタグを割り当てていない。
- 分類エンジンがアイテムにタグを割り当てているが、開いているスマートパーティションに関連付けたタグのどれとも一致しない。

これらの条件のどれも該当しない場合、Enterprise Vault は適切なスマートパーティションにアイテムをアーカイブします。分類エンジンがアイテムに割り当てたタグと、開いている 1 つのスマートパーティションに関連付けたタグの間に一致がある場合、Enterprise Vault はこのパーティションにアイテムをアーカイブします。たとえば、あるアイテムがタグ「PII」を使用して分類されており、そのタグがスマートパーティションに関連付けられている場合、Enterprise Vault はこのパーティションにアイテムをアーカイブします。

開いているスマートパーティションが複数がある場合、状況はより複雑になります。それぞれパーティションにアイテムを受け取る可能性があります。たとえば、あるアイテムがタグ「PII」と「Credit-Card」を使用して分類されており、それぞれのタグを別々のスマートパーティションに関連付けたとします。パーティションを設定するときに、パーティションに関連付ける各タグにランクを設定できます。「PII」タグのランクが「Credit-Card」タグより高い場合、Enterprise Vault は、「PII」タグと関連付けられているパーティションにアイテムをアーカイブします。

スマートパーティションの設定

スマートパーティションを設定する手順は、標準のボルトストアパーティションの設定手順とほぼ同じです。唯一の大きな違いは、スマートパーティションを設定するときに、スマートパーティションに関連付ける分類タグを 1 つ以上選択する必要があることです。

スマートパーティションを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ボルトストアグループ]コンテナが表示されるまで、Enterprise Vault サイトの階層を展開します。
- 2 [ボルトストアグループ]コンテナを展開して、既存のボルトストアグループを表示します。
- 3 スマートパーティションを設定するボルトストアを含むボルトストアグループを展開します。
- 4 スマートパーティションを設定するボルトストアを展開します。
- 5 [スマートパーティション]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[スマートパーティション]の順にクリックします。

新規スマートパーティションウィザードが起動します。

- 6 画面に表示される指示に従います。以下の情報を指定する必要があります。
 - スマートパーティションの名前と説明
 - スマートパーティションの初期状態をオープンまたはクローズのどちらに設定するか
 - スマートパーティションと関連付ける分類タグ
 - パーティションを作成するストレージデバイスの種類
 - ストレージデバイス上の新しいパーティションの場所
 - ストレージデバイスで使用するストレージの設定
 - Dell EMC Centera デバイス上のパーティションの場合、デバイスレベル共有を有効にするかどうか
 - パーティションフォルダに、セキュリティ ACL を使用するスマートパーティションを作成するか
 - スマートパーティションでバックアップを作成しているデータを確認する方法
 - ファイル収集ソフトウェアを使用して、大きい収集ファイルに多数の小さいファイルをまとめるかどうか

Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされたことの確認

Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションに正常にアーカイブされたことを確認するには、Vault 管理コンソールの使用状況レポートを確認します。

Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされたことの確認方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ボルトストアグループ]コンテナが表示されるまで、Enterprise Vault サイトの階層を展開します。
- 2 [ボルトストアグループ]コンテナを展開して、既存のボルトストアグループを表示します。
- 3 使用状況レポートを表示するボルトストアを含むボルトストアグループを展開します。
- 4 目的のボルトストアを右クリックし、[レポート]をクリックします。
[ボルトストア使用状況の詳細情報]ページが表示されます。
- 5 [パーティションごとの使用状況レポートの表示]をクリックします。
このレポートには次の情報が表示されます。

名前	パーティションの名前を表示します。
スマート	パーティションがスマートパーティション (True) または標準のボルトストアパーティション (False) のどちらであるかを示します。
アイテム数	パーティションのアイテムの数を表示します。
合計サイズ	パーティションのアイテムの合計サイズを表示します。

また、次の情報もレポートに記載されます。

- ボルトストア内のアイテムの総数。
- すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の合計サイズ。
- 各アーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の平均サイズ。

カスタムフィールドの検索に 使う Enterprise Vault のプ ロパティ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault のプロパティについて](#)
- [システムプロパティ](#)
- [添付ファイルのプロパティ](#)
- [Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ](#)
- [Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ](#)

Enterprise Vault のプロパティについて

Enterprise Vault はアイテムにインデックス付けするときに、アイテムに関する情報が含まれるアイテムの複数のメタデータプロパティを使います。このような情報の例として、表示名とメッセージ作成者の電子メールアドレス、添付ファイルの数、アイテムのファイルサイズなどがあります。

インデックス付きアイテムには多数のプロパティがありますが、分類の対象になるのは 1 つのサブセットのみです。サブセットは、Enterprise Vault が分類のために Veritas 情報分類子に渡すプロパティと関連値です。Veritas 情報分類子ポリシーを作成するとき、これらのプロパティの名前を、ポリシー条件のカスタムフィールドとして入力できます。

p.25 の「[ポリシー条件について](#)」を参照してください。

システムプロパティ

表 A-1 に、Enterprise Vault で定義されているシステムプロパティの一覧を示します。

表 A-1 Enterprise Vault のシステムプロパティ

プロパティ	種類	説明
adat	日付	アイテムをアーカイブした日付。
archiveid	文字列	アイテムを格納するアーカイブの ID。PowerShell cmdlet の Get-EVArchive を使用して必要な ID を取得できます。
audn	文字列	作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の表示名。
auea	文字列	作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の電子メールアドレス。
cend	日付	カレンダーミーティングなどのイベントの終了日。
clcn	文字列	アイテムの現在の場所。フォルダのシーケンス。
cllf	文字列	現在の場所にある最後のフォルダつまり末端のフォルダ。
clon	文字列	カレンダーミーティングなどのイベントの場所。
cntp	文字列	対話追跡トピック。これは MAPI アイテムおよび SMTP アイテムのみに現在ポピュレートされています。

プロパティ	種類	説明
comr	文字列	<p>消失した内容の理由。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0. 利用可能な理由はありません。 1. 内容は存在しません。 2. 内容を入手できませんでした。 3. 内容が壊れています (または壊れているようです)。 4. 適した形式に内容を変換できません。 5. 内容の変換に失敗しました (コンバータエラー)。 6. 内容の変換がタイムアウトになりました。 7. 内容の変換が必要ですが、データ形式は変換から除外されています。 8. 内容の変換が必要ですが、変換のバイパスは設定されています。 9. 内容が暗号化されています。 10. 内容の変換が必要ですが、コンバータは利用できないか、初期化されていません。 11. インデックスに内容を追加できません。 12. コンバータはファイルの種類を認識しませんでした。 13. 大きいファイルのために変換が除外されました。 14. 検出できないコードページのために変換が除外されました。
cpnm	文字列	拡張コンテンツプロバイダの名前。
crcn	文字列	<p>現在の保持カテゴリ名。</p> <p>分類、保持計画、保持フォルダなど、Enterprise Vault の各種の機能がアイテムに適用している値を反映することがあります。</p>
cre	整数	カレンダー反復の例外。
crrp	文字列	カレンダー反復パターン。
crrt	整数	カレンダー反復の種類。
csrt	日付	カレンダーミーティングなどのイベントの開始日。
date	日付	作成、送信、受信、またはアーカイブが行われた日付。
dtyp	文字列	アイテムのデータの種類。たとえば、DOCX、XLSX、または MSG。
flag	文字列	メッセージフラグの状態。
impo	文字列	数値で表されるメッセージの重要度。0 = 低、1 = 標準、2 = 高。
keys	文字列	カテゴリまたはキーワード。

プロパティ	種類	説明
locn	文字列	アイテムの元の場所。フォルダのシーケンス。
mdat	日付	アイテムの最終変更日。
msgc	文字列	アイテムの元の MAPI メッセージクラス (たとえば、IPM.Note)。
natc	番号	添付ファイルの数。
nrcp	番号	受信者の数。 配布リストは、メンバーの数に関係なく、1 人の受信者としてカウントされます。
nrea	数	受信者の電子メールアドレスの数。 配布リストを展開するように Enterprise Vault を設定した場合は、ジャーナルアーカイブのアイテムでは配布リストの各メンバーが 1 人の受信者としてカウントされます。
prio	文字列	数値で表されるメッセージの優先度。-1 = 低、0 = 標準、および 1 = 高。
rbdn	文字列	BCC 受信者の表示名。
rbea	文字列	BCC 受信者の電子メールアドレス。
rcdn	文字列	CC 受信者の表示名。
rcea	文字列	CC 受信者の電子メールアドレス。
rsdt	日付	保持の開始日付/時刻。 32 ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。
rtdn	文字列	宛先受信者の表示名。
rtea	文字列	宛先受信者の電子メールアドレス。
sens	文字列	数値で表されるメッセージの機密性。0 = 標準、1 = 個人用、2 = 秘密、および 3 = 機密。
size	番号	KB のアイテムのサイズ。
subj	文字列	件名またはタイトル。
tcdt	日付	タスクの完了日。
tddt	日付	タスクの期限。

プロパティ	種類	説明
tsts	番号	タスクの状態。0 = 未開始、1 = 進行中、2 = 完了、3 = 一時停止、4 = 遅延。

添付ファイルのプロパティ

Enterprise Vault が分類に渡したアイテムに 1 つ以上の添付ファイルがある場合、これらの添付ファイルの複数のプロパティも分類に使用できます。これらの添付ファイルのプロパティは **a_** 接頭辞の **a_comr**、**a_date** などによって区別できます。表 A-2 に、Enterprise Vault が分類のために渡す添付ファイルのプロパティの一般的なセットが一覧表示されています。

表 A-2 Enterprise Vault の添付ファイルのプロパティ

プロパティ	種類	説明
a_comr	文字列	不明な内容の理由 (暗号化された内容、コンバータエラーなど)。詳しくは、 comr プロパティの説明を参照してください。 p.62 の「システムプロパティ」を参照してください。
a_date	日付	添付ファイルの作成、送信、受信、またはアーカイブが行われた日付。
a_dtyp	文字列	添付ファイルのデータの種類。たとえば、DOCX、XLSX、または MSG。
a_mdat	日付	添付ファイルの最終変更日。
a_size	番号	KB の添付ファイルのサイズ。
a_subj	文字列	添付ファイルのファイル名。またはメッセージの場合は件名。

分類機能では、添付ファイルを常にファイルとして扱います。そのため、添付ファイルが電子メールメッセージの場合でも、送信者の情報と受信者の情報を分類に利用できません。

Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-3 は Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-3 Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
Vault.CopiedFrom	文字列	<p>Enterprise Vault のアーカイブの移動機能がコピーしたアイテムの次の詳細を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイテムをコピーした日時。 ■ アーカイブ元の識別子。 ■ ソースアイテムの保存セット識別子。 <p>次の形式があります。</p> <p><i>UTC_datetime_of_copy、source_archive_ID、source_item_Saveset_ID</i></p> <p>アーカイブが数回移動された場合、各移動に値があります。</p>
Vault.JournalType	文字列	<p>ジャーナルメッセージ用のジャーナルの種類。オプションは次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ E2003 ■ E2007 ■ E2007ClearText ■ E2007RMS
Vault.MsgDirection	文字列	<p>メッセージの方向。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0 - 未定義 ■ 1 - 内部 (送信者とすべての受信者が内部) ■ 2 - 外部インバウンド (送信者が外部で、1 人以上の受信者が内部) ■ 3 - 外部アウトバウンド (送信者が外部で、1 人以上の受信者が外部)
Vault.MsgType	文字列	<p>メッセージの種類。オプションは次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Bloomberg ■ DXL ■ EXCH ■ FAX.vendor ■ IM.vendor ■ SMTP

ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-4 はファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-4 ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVFSADLMImport.DLM	文字列	アイテムがレガシーのアーカイブアプリケーション、Veritas データライフサイクル管理 (DLM) からインポートされたインジケータ。これは現在文字列「インポート済み」とポピュレートされていません。
EVFSA.OriginalFileName	文字列	Enterprise Vault がアーカイブしたポイントのファイルのオリジナル名称。

SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-5 は SharePoint のアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

これらのプロパティの中には、特定の Enterprise Vault システムプロパティと同様なものがあります。たとえば、SharePoint プロパティ "EVSP.Title" は Enterprise Vault システムプロパティ "subj" と似ています。ただし、Enterprise Vault システムプロパティは、ソーシャルコンテンツアイテムなど、一部の SharePoint アイテムで予測される情報を保持しません。このため、SharePoint アーカイブを検索する場合は、同等の Enterprise Vault システムプロパティでなく、カスタムの SharePoint インデックスプロパティを使ってください。

表 A-5 SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVSP.AttachmentName	文字列	このアイテムに対するすべての添付ファイルの名前の一覧。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。
EVSP.Comment	文字列	チェックインのコメント。

プロパティ	種類	説明
EVSP.Created	文字列	アイテムの作成日。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。
EVSP.CreatedBy	文字列	文書の作成者のドメイン名 (Windows アカウント名)。
EVSP.DocId	文字列	SharePoint 文書の識別子。
EVSP.Editor	文字列	文書エディタの表示名。
EVSP.Modified	文字列	アイテムが最後に更新された日付。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。
EVSP.ModifiedBy	文字列	文書エディタのドメイン名 (Windows アカウント名)。
EVSP.ProgId	文字列	アイテムのプログラム ID。
EVSP.Site	文字列	SharePoint のサイトの名前。
EVSP.SiteId	文字列	SharePoint のサイトの識別子。
EVSP.SiteUrl	文字列	SharePoint のサイトの URL。
EVSP.Title	文字列	SharePoint 文書のタイトル。
EVSP.UniqueId	文字列	アイテムを一意に識別する GUID。
EVSP.Version	文字列	SharePoint 文書のバージョン。
EVSP.Attachments	文字列	アイテムに添付ファイルがあるかどうか (true または false)。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。
EVSP.display_name	文字列	アーカイブ済みアイテムの表示名。
EVSP.SharePoint_property_name	文字列	カスタマーが設定可能なプロパティ。任意の SharePoint のプロパティ。

Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-6 は Compliance Accelerator でランダムにサンプリングしたアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-6 Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
KVSCA.Department	文字列	KVSCA.DeptAuthor と KVSCA.DeptRecips のプロパティ値を組み合わせます。
KVSCA.DeptAuthor	文字列	アイテムの作成者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。
KVSCA.DeptRecips	文字列	アイテムの受信者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。
Vault.PolicyAction	文字列	<p>アイテムで取る必要がある全体処理。適用されるポリシーすべての合計の結果。次の定義値があります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NOACTION ■ EXCLUDE ■ INCLUDE

ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

表 A-7 に、Enterprise Vault Data Classification Services などの特定のポリシー管理アプリケーションで使われることがあるカスタムプロパティの一覧を示します。

(Data Classification Services は、Veritas Enterprise Vault と Symantec Data Loss Prevention のさまざまなコンポーネントを組み合わせる、旧式のアドオン分類技術です。ここで説明する分類機能とは異なります。)

表 A-7 ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
evtag.category	文字列	いずれの方向のキャプチャにも影響しないポリシーです。アイテムの分類のみを行います。
evtag.exclusion	文字列	レビューセット内でキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進するポリシーです。
evtag.inclusion	文字列	キャプチャを要求または提案するポリシーです。

Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

表 A-8 は、他社のアプリケーションで SMTP メッセージに追加し、Enterprise Vault SMTP アーカイブでポリシーと対象設定を上書きできるカスタムプロパティをリストします。これらのプロパティについて詳しくは、『SMTP アーカイブの設定』を参照してください。

表 A-8 Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVXHDR.X-Kvs-ArchiveId	文字列	メッセージを保存するアーカイブの識別子。
EVXHDR.X-Kvs-IndexData	文字列	インデックス付けする Enterprise Vault の 1 つ以上のプロパティ。
EVXHDR.X-Kvs-MessageType	文字列	メッセージの種類。これにより、Enterprise Vault SMTP アーカイブがデフォルトで SMTP.mail に設定する Vault.MsgType プロパティの値が上書きされます。
EVXHDR.X-Kvs-OriginalLocation	文字列	メッセージが存在するコンテンツソースのフォルダ。
EVXHDR.X-Kvs-RetentionCategory	文字列	メッセージに割り当てる保持カテゴリの ID。

分類に使う PowerShell cmdlet

この付録では以下の項目について説明しています。

- [cmdlet の分類について](#)
- [Disable-EVClassification](#)
- [Get-EVClassificationPolicy](#)
- [Get-EVClassificationStatus](#)
- [Get-EVClassificationTestMode](#)
- [Get-EVClassificationVICTags](#)
- [Initialize-EVClassificationVIC](#)
- [New-EVClassificationPolicy](#)
- [Remove-EVClassificationPolicy](#)
- [Set-EVClassificationPolicy](#)
- [Set-EVClassificationTestMode](#)

cmdlet の分類について

この章では、Enterprise Vault の分類のさまざまな機能を管理するのに使う PowerShell cmdlet について説明します。これらの cmdlet は管理コンソールで利用可能な機能と大部分で重複しています。

『PowerShell Cmdlet』ガイドは Enterprise Vault を管理するために PowerShell を使う際の詳細情報を提供します。また、その他の数多くの cmdlet についても説明します。

Disable-EVClassification

Disable-EVClassification は、ファイル分類インフラストラクチャエンジンまたは Veritas Information Classifier エンジンが無効にします。この cmdlet で両方のエンジンを無効にすることはできません。Enterprise Vault サーバーで cmdlet を実行します。

分類エンジンを一度無効にし、あとで再び有効にする場合は、次のいずれかの cmdlet を使用して行うことができます。

- ファイル分類インフラストラクチャエンジンの場合は、
Import-EVClassificationFCIRules または
Publish-EVClassificationFCIRules を使用します。
- Veritas Information Classifier エンジンの場合は、
Initialize-EVClassificationVIC を使用します。

Disable-EVClassification は、
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

Disable-EVClassification [-FCI <SwitchParameter>] [-VIC
<SwitchParameter>] [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]

パラメータ

表 B-1 Disable-EVClassification のパラメータ

パラメータ	説明
-FCI	ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類を無効にします。
-VIC	Veritas Information Classifier を使用する分類を無効にします。
-SiteId	指定した分類エンジンを無効にする Enterprise Vault サイトの ID です。このパラメータを省略すると Disable-EVClassification は現在のサイトの ID を判別するためにレジストリを確認します。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。

例

- Disable-EVClassification -FCI
ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類を無効にします。サイト ID を指定しないと、cmdlet はレジストリを確認して現在のサイトの ID を判別します。
- Disable-EVClassification -VIC -SiteId 198...example.com

Veritas Information Classifier を使用する分類を、指定した Enterprise Vault サイト内で無効にします。

出力

この cmdlet は、次のプロパティを持つ

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationEngine` タイプのオブジェクトを返します。

表 B-2 Disable-EVClassification のプロパティ

名前	種類	説明
SiteName	文字列	分類エンジンを無効にした Enterprise Vault サイトの名前です。
FCIEnabled	Boolean	ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。
VICEnabled	Boolean	Veritas Information Classifier エンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。
VICPoliciesPath	文字列	Veritas Information Classifier エンジンがポリシー情報を保持するフォルダのパスです。このエンジンを無効にした場合、このパスは空白になります。

Get-EVClassificationPolicy

`Get-EVClassificationPolicy` は、サイトで設定されるすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。`-Name` パラメータを使うと、特定の分類ポリシーのプロパティを返すこともできます。

`Get-EVClassificationPolicy` は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

構文

```
Get-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [[-Name] <String>]  
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-3 Get-EVClassificationPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Enterprise Vault 分類ポリシーの詳細を返す対象サイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet でレジストリ内を検索して ID を特定できないときは、Get-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name	プロパティを返す特定の Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。

例

- Get-EVClassificationPolicy
Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。サイト ID が指定されていないため、cmdlet はまずその ID をレジストリ内で検索し、ID が見つからなかった場合は、それを入力するためのメッセージが表示されます。
- Get-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com
指定された Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。
- Get-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy"
「Classification policy」という名前の Enterprise Vault 分類ポリシーのプロパティを返します。次に例を示します。

```
Name : Classification policy
EntryId : 125...EV.example.com
IsADefaultPolicy : True
DuringArchivingIndexing : True
DetermineRC : True
RCDuringDeletion : True
RCDuringExpiry : True
PreventRCDuringMove : True
AllowRConRecTypeChange : True
Description : Classification policy
SiteId : 13E...EV.example.com
```

出力

この cmdlet は、次のプロパティを持つタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.ClassificationPolicy` のオブジェクトを返します。

表 B-4 Get-EVClassificationPolicy プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。
EntryId	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーのディレクトリエントリ ID。
IsADefaultPolicy	Boolean	Enterprise Vault 分類ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。
DuringArchivingIndexing	ブール値	アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテムを分類するかどうか。
DetermineRC	Boolean	保持カテゴリを判別するために分類を使うかどうか。
RCDuringDeletion	Boolean	ユーザーによる削除時にアイテムが分類されるかどうか。
RCDuringExpiry	Boolean	自動期限切れ時にアイテムが分類されるかどうか。
PreventRCDuringMove	Boolean	ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときに、これらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうか。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があります。
AllowRConRecTypeChange	Boolean	アイテムのレコードタイプが変更される場合に (Temporary から Permanent への変更など) 保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可するかどうか。
Description	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーの説明。
SiteId	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーが属するサイト ID。

名前	種類	説明
Identity	番号	Enterprise Vault 分類ポリシーの ID 番号。

関連 cmdlet

- p.82 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.86 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.87 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Get-EVClassificationStatus

Get-EVClassificationStatus は、すべてのサイトのファイル分類インフラストラクチャエンジンおよび Veritas Information Classifier エンジンの現在の状態を示します。
-SiteId パラメータを使用して特定のサイトのエンジンの状態を示すこともできます。

Get-EVClassificationStatus は、
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

Get-EVClassificationStatus [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]

パラメータ

表 B-5 Get-EVClassificationStatus のパラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	両方の分類エンジンの現在の状態を示す Enterprise Vault サイトの ID です。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。

例

- Get-EVClassificationStatus
すべての Enterprise Vault サイト内の両方の分類エンジンの現在の状態を示します。
- Get-EVClassificationStatus -SiteId 13E...EV.example.com
指定したサイト内の両方の分類エンジンの現在の状態を示します。

出力

この cmdlet は、以下のプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationEngine` 型のオブジェクトの配列を返します。

表 B-6 Get-EVClassificationStatus のプロパティ

名前	種類	説明
SiteName	文字列	分類エンジンの状態を示す Enterprise Vault サイトの名前です。
FCIEnabled	Boolean	ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。
VICEnabled	Boolean	Veritas Information Classifier エンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。
VICPoliciesPath	文字列	Veritas Information Classifier エンジンがポリシー情報を保持するフォルダのパスです。このエンジンを無効にした場合、このパスは空白になります。

Get-EVClassificationTestMode

`Get-EVClassificationTestMode` は、処理対象アーカイブにおいてテストモードで Enterprise Vault 分類機能が動作しているかどうかを報告します。テストモードでは、分類機能は、アーカイブのアイテムに分類タグやその他の変更を適用するのではなく、計画している変更を一覧表示するレポートを生成します。

`Get-EVClassificationTestMode` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` によって提供されます。

構文

```
Get-EVClassificationTestMode [-ArchiveID] <string>
```

パラメータ

表 B-7 Get-EVClassificationTestMode パラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveID (必須)	分類のテストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの ID を指定します。

例

- `Get-EVClassificationTestMode -ArchiveID 19D...EVServer1`
指定したアーカイブについて分類のテストモードの現在の状態を取得します。

出力

表 B-8 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 B-8 Get-EVClassificationTestMode プロパティ

名前	種類	説明
ArchiveID	文字列	テストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの ID。
ArchiveName	文字列	テストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの名前。
TestMode	Boolean	アーカイブについての分類のテストモードの現在の状態: 有効 (\$true) または無効 (\$false)。

関連コマンドレット

- p.90 の「[Set-EVClassificationTestMode](#)」を参照してください。

Get-EVClassificationVICTags

メモ: この cmdlet は、Enterprise Vault 12.2 以降で Veritas Information Classifier とともにのみ使用します。Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類など、以前のバージョンの Enterprise Vault の分類機能とともに使用することは想定していません。

分類キャッシュフォルダ内で指定したプレーンテキスト (.txt) ファイルのペアに対し、Get-EVClassificationVICTags は一致する Veritas Information Classifier ポリシーと関連する分類プロパティの詳細を返します。Enterprise Vault サーバーで cmdlet を実行します。

デフォルトでは、Enterprise Vault ができるだけ早い段階でキャッシュフォルダを空にします。ただし、管理コンソールで設定を選択することによって、キャッシュの内容を保持するように設定できます。

p.94 の「[キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成](#)」を参照してください。

Get-EVClassificationVICTags は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

```
Get-EVClassificationVICTags [-ContentFile] <String> [-MetadataFile]  
<String> [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-9 Get-EVClassificationVICTags のパラメータ

パラメータ	説明
-ContentFile (必須)	分類の詳細を返すプレーンテキストのコンテンツファイルへのパス (通常はテキストファイルで、ファイル名の末尾がVC.txt)。ドル記号 (\$) を含むファイル名は、一重引用符 (') で囲みます。
-MetadataFile (必須)	分類の詳細を返すプレーンテキストのメタデータファイルへのパス (通常はテキストファイルで、ファイル名の末尾がVMD.txt)。ドル記号 (\$) を含むファイル名は、一重引用符 (') で囲みます。

例

- Get-EVClassificationFCITags -ContentFile
'E:¥EVCache¥Classification¥EV\$9...B8VC.txt' -MetadataFile
'E:¥EVCache¥Classification¥EV\$9...8VMD.txt'
指定したプレーンテキストファイルについて分類の詳細を返します。

出力

この cmdlet は、以下のプロパティが設定された

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationProperty
型のオブジェクトの配列を返します。

表 B-10 Get-EVClassificationVICTags のプロパティ

名前	種類	説明
PolicyName	文字列	一致する Veritas Information Classifier ポリシー。
カテゴリ	文字列	一致する evtag.category の値。
含める	文字列	一致する evtag.inclusion の値。
除外	文字列	一致する evtag.exclusion の値。
破棄	ブール値	アイテムが破棄されるかどうか。
RetentionCategories	文字列	一致する保持カテゴリ。

Initialize-EVClassificationVIC

メモ: この cmdlet は、Enterprise Vault 12.2 以降で Veritas Information Classifier とともにのみ使用します。Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類など、以前のバージョンの Enterprise Vault の分類機能とともに使用することは想定していません。

Initialize-EVClassificationVIC は、指定したサイトのすべての Enterprise Vault サーバーで Veritas Information Classifier を有効にします。また、これらのサーバーそれぞれに、cmdlet で Microsoft インターネットインフォメーションサービス (IIS) の Veritas Information Classifier の Web サイトを設定します。

Initialize-EVClassificationVIC を実行する権限は、Vault サービスアカウントに制限されます。たとえば、スタンドアロンの Vault 管理コンソールをインストールしている別のコンピュータではなく、Enterprise Vault サーバーでこの cmdlet を実行します。

初めて cmdlet を実行する場合は、まず次の操作を行います。

- Vault 管理コンソールの Enterprise Vault ディレクトリのプロパティで、データアクセスアカウントを設定します。Enterprise Vault は、このアカウントを使用して Veritas Information Classifier システムにアクセスします。
p.14 の「[データアクセスアカウントの設定](#)」を参照してください。
- すべての Enterprise Vault サーバーからアクセス可能な共有ネットワークドライブで、Veritas Information Classifier でポリシー情報を保持するフォルダを作成します。ポルトサービスアカウントとデータアクセスアカウントの両方に、このフォルダの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。

cmdlet を実行したら、次の操作を行うことを推奨します。

- Veritas Information Classifier ポリシーを少なくとも 1 つ有効にします。
p.31 の「[ポリシーの有効化または無効化](#)」を参照してください。
- ポリシー情報フォルダを定期的にバックアップします。システムエラーが発生した場合は、作成したカスタムポリシーや、カスタムポリシーの有効化/無効化など、組み込みポリシーに加えた変更を元に戻すことができます。

Initialize-EVClassificationVIC は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

```
Initialize-EVClassificationVIC [-PoliciesPath <String>] [-SiteId  
<String>] [CommonParameters]
```


パラメータ

表 B-11 Initialize-EVClassificationVIC パラメータ

パラメータ	説明
-PoliciesPath	<p>Veritas Information Classifier でポリシー情報を保持するフォルダの UNC パスを指定します。フォルダが作成されている必要があります。この cmdlet では作成されません。</p> <p>Initialize-EVClassificationVIC を初めて実行するときに、このパラメータを必ず指定します。以降の実行時に、以前に指定したフォルダパスを cmdlet で使用する場合はこのパラメータを省略できます。</p> <p>または、パラメータを再度指定して、別のフォルダパスを指定できます。異なるパスを指定した場合、Veritas Information Classifier を再び使用する前に、古いポリシーフォルダのコンテンツを新しいフォルダに移動します。</p>
-SiteId	<p>Veritas Information Classifier を設定する Enterprise Vault サイトの ID を指定します。このパラメータを省略すると Initialize-EVClassificationVIC は現在のサイトの ID を判別するためにレジストリを確認します。この確認が何らかの理由で失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>

例

- Initialize-EVClassificationVIC -PoliciesPath ¥¥server1¥VicPolicies
現在の Enterprise Vault サーバーで、指定したポリシーフォルダのパスを指定して cmdlet を実行します。サイト ID を指定しないと、cmdlet はレジストリを確認して現在のサイトの ID を判別します。
- Initialize-EVClassificationVIC -Verbose -PoliciesPath ¥¥server1¥VicPolicies -SiteId 198...example.com
指定したポリシーフォルダのパスと Enterprise Vault サイトを使用して、詳細モードで cmdlet を実行します。
- Initialize-EVClassificationVIC -Verbose
現在の Enterprise Vault サーバーで既存のポリシーフォルダのパスを使用して、詳細モードで cmdlet を実行します。以前にフォルダのパスを指定していない場合はエラーメッセージが表示されます。

出力

なし。

New-EVClassificationPolicy

New-EVClassificationPolicy はサイトの Enterprise Vault 分類ポリシーを作成します。

New-EVClassificationPolicy は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
New-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>
[-Description <String>] [-DuringArchivingIndexing <Boolean>]
[-DetermineRC <Boolean>] [-RCDuringDeletion <Boolean>]
[-RCDuringExpiry <Boolean>] [-PreventRCDuringMove <Boolean>]
[-AllowRConRecTypeChange <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-12 New-EVClassificationPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Enterprise Vault 分類ポリシーを作成する対象サイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet でレジストリ内を検索して ID を特定できないときは、New-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name (必須)	Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。名前は一意である必要があり、最大 40 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。
-Description	Enterprise Vault 分類ポリシーに対して設定する説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。

パラメータ	説明
-DuringArchivingIndexing	<p>Enterprise Vault がアーカイブまたはインデックス作成中にアイテムを分類すべきかどうかを指定します (\$true または \$false)。デフォルトは \$true です。</p> <p>この設定は、Enterprise Vault がインデックスを再構築するときにアイテムを再分類するかどうかを決定します。分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはないことに注意してください。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。</p> <p>たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。</p>
-DetermineRC	<p>アイテムの保持カテゴリの更新を分類機能に対して許可するかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$true です。</p>
-RCDuringDeletion	<p>DetermineRC が \$true である場合は、ユーザーによる削除の分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringDeletion を \$true に設定できません。</p>
-RCDuringExpiry	<p>DetermineRC が \$true である場合は、自動期限切れの分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定できません。 ■ DuringArchivingIndexing が \$false で、DetermineRC が \$true である場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定する必要があります。

パラメータ	説明
-PreventRCDuringMove	<p>DetermineRC が \$true の場合に、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうかを指定します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。</p> <p>PreventRCDuringMove のデフォルトは \$false です。Enterprise Vault は、サイトのアーカイブ設定に従い、アイテムの保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可します。</p>
-AllowRConRecTypeChange	<p>Enterprise Vault レコード管理機能を使って、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けする環境で使います。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$true の場合に (ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする)、AllowRConRecTypeChange は、アイテムのレコードタイプも変更されるときにこれらの更新を許可するかどうかを指定します。AllowRConRecTypeChange のデフォルトは \$true です。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$false の場合、AllowRConRecTypeChange は無効です。</p>

例

- `New-EVClassificationPolicy -SiteId l3E...EV.example.com -Name "Classification policy" -Description "Classification policy created using PowerShell"`
指定した **Enterprise Vault** サイトに「**Classification policy**」という名前の **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。新しいポリシーには「**Classification policy created using PowerShell**」という説明があります。
- `New-EVClassificationPolicy -Name "Classification policy" -DuringArchivingIndexing $true -DetermineRC $false`
「**Classification policy**」という名前の **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。このポリシーは、アーカイブ中またはインデックスの作成中にアイテムを分類しますが、保持カテゴリを判別するために分類をしません。
- `New-EVClassificationPolicy -Name "Classification policy" -PreventRCDuringMove $true`

アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテムを分類し、分類機能によるアイテムの保持カテゴリの更新を許可する **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。このポリシーは、ユーザーがアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリが **Enterprise Vault** によって更新されないようにします。ただし、これによってアイテムのレコードタイプが変更される場合は除きます。

出力

この **cmdlet** は、次のプロパティを持つタイプ

`Symantec.EnterpriseVault.Admin.ClassificationPolicy` のオブジェクトを返します。

表 B-13 New-EVClassificationPolicy プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。
EntryId	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーのディレクトリエントリ ID。
IsADefaultPolicy	Boolean	Enterprise Vault 分類ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。
DuringArchivingIndexing	ブール値	アーカイブ中またはインデックスの作成中にアイテムを分類するかどうか、インデックスの再構築時に再分類するかどうか。
DetermineRC	Boolean	保持カテゴリを判別するために分類を使うかどうか。
RCDuringDeletion	Boolean	ユーザーによる削除時にアイテムが分類されるかどうか。
RCDuringExpiry	Boolean	自動期限切れ時にアイテムが分類されるかどうか。
PreventRCDuringMove	Boolean	ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときに、これらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうか。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があります。

名前	種類	説明
AllowRConRecTypeChange	Boolean	アイテムのレコードタイプが変更される場合に (Temporary から Permanent への変更など) 保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可するかどうか。
Description	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーの説明。
SiteId	文字列	Enterprise Vault 分類ポリシーが属するサイト ID。
Identity	番号	Enterprise Vault 分類ポリシーの ID 番号。

関連 cmdlet

- p.73 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.86 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.87 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Remove-EVClassificationPolicy

Remove-EVClassificationPolicy は、指定した Enterprise Vault 分類ポリシーが使用中でなければ削除します。cmdlet により、分類ポリシーの削除を確認するためのメッセージが表示されます。

Remove-EVClassificationPolicy は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Remove-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String> [  
<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-14 Remove-EVClassificationPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Enterprise Vault 分類ポリシーが属しているサイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できないと、Remove-EVClassificationPolicy によって必要な ID の入力を求めるメッセージが表示されます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。

パラメータ	説明
-Name (必須)	削除する Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。

例

- `Remove-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy"`
指定した **Enterprise Vault** サイトから「**Classification policy**」という **Enterprise Vault** 分類ポリシーを削除します。

出力

なし。

関連コマンドレット

- p.73 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.82 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.87 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Set-EVClassificationPolicy

`Set-EVClassificationPolicy` は既存の **Enterprise Vault** 分類ポリシーのプロパティを設定または更新します。

`Set-EVClassificationPolicy` は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

構文

```
Set-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>  
[-Description <String>] [-DuringArchivingIndexing <Boolean>]  
[-DetermineRC <Boolean>] [-RCDuringDeletion <Boolean>]  
[-RCDuringExpiry <Boolean>] [-PreventRCDuringMove <Boolean>]  
[-AllowRConRecTypeChange <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-15 Set-EVClassificationPolicy のパラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	<p>Enterprise Vault 分類ポリシーの詳細を設定または更新する対象サイトの ID。このパラメータを省略して、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、Set-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>
-Name (必須)	設定または更新対象のプロパティを持つ特定の Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。ポリシーの名前を変更する場合は、新しい名前を 40 文字までの英数字と空白文字を含んだ、重複しない名前にする必要があります。
-Description	Enterprise Vault 分類ポリシーに対して設定する説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
-DuringArchivingIndexing	<p>Enterprise Vault がアーカイブまたはインデックス作成中にアイテムを分類すべきかどうかを指定します (\$true または \$false)。デフォルトは \$true です。</p> <p>この設定は、Enterprise Vault がインデックスを再構築するときにアイテムを再分類するかどうかも決定します。分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはないことに注意してください。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。</p> <p>たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。</p>
-DetermineRC	アイテムの保持カテゴリの更新を分類機能に対して許可するかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$true です。

パラメータ	説明
-RCDuringDeletion	<p>DetermineRC が \$true である場合は、ユーザーによる削除の分類を有効にするかどうかを(\$true)または(\$false)で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringDeletion を \$true に設定できません。</p>
-RCDuringExpiry	<p>DetermineRC が \$true である場合は、自動期限切れの分類を有効にするかどうかを(\$true)または(\$false)で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定できません。 ■ DuringArchivingIndexing が \$false で、DetermineRC が \$true である場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定する必要があります。
-PreventRCDuringMove	<p>DetermineRC が \$true の場合に、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうかを指定します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。</p> <p>PreventRCDuringMove のデフォルトは \$false です。Enterprise Vault は、サイトのアーカイブ設定に従い、アイテムの保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可します。</p>
-AllowRCOnRecTypeChange	<p>Enterprise Vault レコード管理機能を使って、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けする環境で使います。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$true の場合に (ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする)、AllowRCOnRecTypeChange は、アイテムのレコードタイプも変更されるときにこれらの更新を許可するかどうかを指定します。AllowRCOnRecTypeChange のデフォルトは \$true です。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$false の場合、AllowRCOnRecTypeChange は無効です。</p>

例

- `Set-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -Description "Classification example policy"`

指定した **Enterprise Vault** サイトで「**Classification policy**」という名前が付いている既存の **Enterprise Vault** 分類ポリシーの説明を更新します。

- `Set-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -PreventRCDuringMove $true -AllowRCONRecTypeChange $false`

指定した **Enterprise Vault** 分類ポリシーが適用されるアーカイブ内にあるアイテムの保持カテゴリをユーザー操作が更新しないように、このポリシーを設定します。更新が禁止される例には、これによってレコードタイプが変更される場合も含まれます。

出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

関連コマンドレット

- p.73 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.82 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.86 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Set-EVClassificationTestMode

`Set-EVClassificationTestMode` は、処理対象アーカイブにおいてテストモードで **Enterprise Vault** の分類機能が動作するようにするかどうかを指定します。テストモードでは、分類機能は、アーカイブのアイテムに分類タグやその他の変更を適用するのではなく、計画している変更を一覧表示するレポートを生成します。次に、結果が十分であるか確認するために、同じアーカイブで `Get-EVClassificationTestMode` を実行できます。

`Set-EVClassificationTestMode` は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` によって提供されます。

構文

```
Set-EVClassificationTestMode [-ArchiveID] <String> [-Enabled  
<Boolean>]
```

パラメータ

表 B-16 Set-EVClassificationTestMode のパラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveID (必須)	テストモードの状態を設定する対象となるアーカイブの ID を指定します。
-Enabled (必須)	アーカイブについての分類のテストモードを有効にする(\$true)か無効にする(\$false)かを指定します。

例

- Set-EVClassificationTestMode -ArchiveID 1E...EVServer1 -Enabled \$true
分類機能が処理対象アーカイブにおいてテストモードで動作するようにするかを指定します。

出力

エラーの場合に例外を返します。ただし、それ以外の場合は何も出力しません。

関連コマンドレット

- p.77 の「[Get-EVClassificationTestMode](#)」を参照してください。

分類キャッシュフォルダ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault](#) が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法
- 分類ファイルサイズの制限
- キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための [Enterprise Vault](#) の構成

Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法

メモ: Enterprise Vault は、キャッシュの保存場所へのアクセスを、ローカルシステムのアカウントおよび組み込みの管理者グループのメンバーに制限します。

Enterprise Vault が Veritas 情報分類子を起動して、分類のために送信されたアイテムを処理する前に、これらのアイテムのプレーンテキストバージョンが、ストレージサーバーの指定されたキャッシュの場所に保存されます。各アイテムは、次に示すような 2 つ以上のプレーンテキストファイルのセットで表されます。

- 1 つ以上のファイルに、アイテムのテキストコンテンツと件名が格納されます。アイテムが非常に大きい場合は、Enterprise Vault がそのコンテンツを複数のプレーンテキストファイルに分割します。

通常、これらのコンテンツファイルは次のような名前になります。

EV\$704348C690A05389A4292971F3C6E691~0D84E700VC.txt

ピリオドの前の vc の接尾辞は、これがコンテンツファイルであることを示します。大きいアイテムのテキストを格納するために、Enterprise Vault で複数のコンテンツファイルが作成される場合、ロールオーバーファイルの接尾辞は vc_1、vc_2 などになります。

ロールオーバーファイルのセットでは、次のファイルの先頭に、前のファイルの最後の 5000 文字が表示されます。この機能により、近接一致を検索する Veritas 情報分類子ポリシーが正しく動作します。

- 1 つのファイルには、Enterprise Vault がアイテムのインデックス付けに使用したメタデータプロパティと関連する値のみが含まれます。この情報は、次の例のように、ファイル内で <プロパティ>:<値> の形式で示されます。

```
rtdn:Mike Smith  
rtea:mike_smith@yourcompany.com  
audn:Sean Gallagher  
auea:sean_gallagher@yourcompany.com  
msgc:IPM.Document.Outlook.File.eml.15  
impo:1  
sens:0  
prio:0  
size:19  
dtyp:EML  
natc:0
```

インデックス付きアイテムには多数のプロパティがありますが、分類の対象になるのは 1 つのサブセットのみです。これらは、Enterprise Vault がこのメタデータファイルに格納するプロパティおよび関連する値で、これらを検索するように Veritas 情報分類子ポリシーを設定できます。

p.61 の「Enterprise Vault のプロパティについて」を参照してください。

メタデータファイルは、対応するコンテンツファイルと同じ名前になりますが、ピリオドの前の接尾辞が vc ではなく vmd になります。次に例を示します。

```
EV$704348C690A05389A4292971F3C6E691~0D84E700VMD.txt
```

デフォルトで、Enterprise Vault は分類が完了した直後にキャッシュフォルダから平文ファイルを削除しますが、この動作は設定可能です。

p.94 の「キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成」を参照してください。

分類ファイルサイズの制限

デフォルトでは、Veritas 情報分類子は最大で 32 MB のファイルを分類できます。ファイルがこの上限を超えると Enterprise Vault は指定したサイズにファイルを自動的に分割して、分割したファイルセット全体で分類を続行します。

Vault 管理コンソールで[最大分類コンテンツサイズ]オプションを調整すると、32 MB の制限を変更できます。Veritas 情報分類子ポリシーが複雑で、ポリシーのさまざまな部分がセット内のさまざまなファイルに一致するせいでアイテムに一致しない場合は、この上限を増やすと効率的です。たとえば、「fraud」と「corruption」という 2 つの単語を検索するポリシーで、1 つのファイルで 1 つ目の単語、別のファイルで 2 つ目の単語を検索する場合などです。

最大分類コンテンツサイズを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを右クリックして[プロパティ]をクリックします。
- 2 [サイトプロパティ]ダイアログボックスで、[詳細設定]タブをクリックします。
- 3 [一覧表示する設定の種類]ボックスフィールドで、[ストレージ]を選択します。
- 4 [最大分類コンテンツサイズ]、[修正]の順にクリックします。
- 5 最大コンテンツサイズを設定して、[OK]をクリックします。

キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成

Enterprise Vault がキャッシュフォルダに保存するプレーンテキストファイルには重要なデータが含まれている可能性があるため、デフォルトで Enterprise Vault はそれらを最初に削除します。これらのファイルの中身について、Enterprise Vault が期待どおりに分類しないなどのために調べる必要がある場合に、自動的に削除されないように構成できます。

キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するよう Enterprise Vault を構成するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]コンテナを展開します。
- 3 設定を変更するアーカイブを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 4 [コンピュータプロパティ]ダイアログボックスで、[詳細設定]タブをクリックします。
- 5 [一覧表示する設定の種類]リストで、[ストレージ]を選択します。
- 6 [分類ファイルの維持]をダブルクリックして、[有効]に設定します。
- 7 [OK]をクリックして変更内容を保存します。

この設定を後でオフにすると、サーバーでストレージサービスを再起動するまで Enterprise Vault が以前にキャッシュフォルダに入れたファイルがそのままになります。ただし、すぐに破棄したい場合は手動で削除できます。

FCI 分類から Veritas Information Classifier への移行

この付録では以下の項目について説明しています。

- [FCI 分類ルールを変換して Veritas 情報分類子で使用する](#)

FCI 分類ルールを変換して Veritas 情報分類子で使用する

Enterprise Vault 12 は、最近の Windows Server エディションに組み込まれている分類エンジンであるファイル分類インフラストラクチャによるアイテムの分類方法を提供します。この方法は、現在のバージョンの Enterprise Vault でも、Veritas 情報分類子に加えて、またはその代替方法として、引き続き使用できます。ただし、Veritas 情報分類子は非常に洗練されていることと、両方の分類エンジンを同時に実行させるとパフォーマンスが低下することは、既存の分類ルールの Veritas 情報分類子への転送を検討すべき理由になります。ルールを転送したら、ファイル分類インフラストラクチャエンジンを無効にしても構いません。

FCI 分類ルールを変換して Veritas 情報分類子で使用するには

- 1 Veritas 情報分類子を使用して分類を行うテストサーバーを準備します。最も重要なことは、PowerShell cmdlet の Initialize-EVClassificationVIC を実行して、Veritas 情報分類子を有効にすることです。

p.12 の「[準備手順について](#)」を参照してください。

p.80 の「[Initialize-EVClassificationVIC](#)」を参照してください。

- 2 Veritas 情報分類子で、FCI 分類ルールと同じ機能を実行するポリシーを作成します。

p.24 の「[ポリシーの作成または編集](#)」を参照してください。

- 3 Veritas 情報分類子のテスト機能を使用し、それぞれのポリシーが期待通りに動作するかどうかを確認します。

- 4 Enterprise Vault 管理コンソールで、個々のアーカイブに対して分類テストモードを実施します。これにより、Veritas 情報分類子のテスト機能で検出されなかったポリシーの問題も特定することができます。

p.53 の「[分類テストモードについて](#)」を参照してください。

あるいは、Enterprise Vault が分類ファイルをキャッシュフォルダ内に保持するように設定し、PowerShell cmdlet の Get-EVClassificationVICTags を使用して Veritas 情報分類子がどのようにファイルをタグ付けしたかを確認できます。

p.94 の「[キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成](#)」を参照してください。

p.78 の「[Get-EVClassificationVICTags](#)」を参照してください。

- 5 Veritas 情報分類子を使用して分類を行う実稼働サーバーを準備します。先ほどと同様に、PowerShell cmdlet の Initialize-EVClassificationVIC を実行して、Veritas 情報分類子を有効にする必要があります。

p.12 の「[準備手順について](#)」を参照してください。

p.80 の「[Initialize-EVClassificationVIC](#)」を参照してください。

Veritas 情報分類子が実稼働サーバー用のポリシー情報を保存するフォルダがテストサーバーで設定したフォルダとは異なる場合、テストサーバーのフォルダ内のコンテンツを新しいフォルダに移動する必要があります。

- 6 実稼働サーバーでファイル分類インフラストラクチャエンジンを無効にするために、PowerShell cmdlet の Disable-EVClassification を次のように実行します。

```
Disable-EVClassification -FCI
```

p.72 の「[Disable-EVClassification](#)」を参照してください。

監視とトラブルシューティング

この付録では以下の項目について説明しています。

- [監査](#)
- [分類パフォーマンスカウンタの確認](#)
- [分類のトラブルシューティング](#)
- [アーカイブ内での Veritas Information Classifier が分類したアイテムの検索](#)

監査

[表 E-1](#) Enterprise Vault がその監査データベースに監査ログエントリを保管することのできる分類アクティビティを記述します。監査はデフォルトでは無効にされていますが、『管理者ガイド』の説明に従って操作することで、有効にすることができます。

表 E-1 監査済み分類アクティビティ

カテゴリ	ログに記録された分類アクティビティ
管理アクティビティ	<ul style="list-style-type: none">■ Enterprise Vault 分類ポリシーの作成、更新、削除。■ アーカイブのための、分類テストモードの有効/無効の切り替え。■ アーカイブのための、分類テストモードの表示/非表示の切り替え。

カテゴリ	ログに記録された分類アクティビティ
分類	<ul style="list-style-type: none">■ Veritas Information Classifier の分類ポリシー、パターンおよびタグの作成、更新、削除。■ インデックスの作成中にアイテムを分類 (CLASSIFIED)。■ インデックスの作成中にアイテムを分類して破棄 (DISCARDED)。■ インデックスの作成中にアイテムを分類して破棄を試行、しかしアイテムまたはアーカイブを保留 (DISCARDONHOLD)。■ アイテムを分類し、自動期限切れの間に破棄を許可 (EXPIRY_ALLOWED)。■ アイテムを分類するが、自動期限切れの間の破棄を許可しない (EXPIRY_BLOCKED)。■ アイテムを分類し、ユーザーによる削除の間に破棄を許可 (USERDELETION_ALLOWED)。■ アイテムを分類するが、ユーザーによる削除の間の破棄を許可しない (USERDELETION_BLOCKED)。

Enterprise Vault が提供する Audit Viewer ユーティリティを使用すると、監査データベース内のデータの表示とフィルタを行えます。Audit Viewer について詳しくは、『ユーティリティ』ガイドを参照してください。

分類パフォーマンスカウンタの確認

Enterprise Vault には、使っている分類機能のリアルタイムパフォーマンスデータを取得できる数多くのカウンタが用意されています。このデータは Windows パフォーマンスモニタまたはパフォーマンスカウンタを監視するために使うその他のプログラムを使って表示できます。

表 E-2 ではカウンタについて説明します。

表 E-2 Enterprise Vault 分類のパフォーマンスカウンタ

カウンタ	説明
自動期限切れが許可されたアイテム	分類の結果としての自動期限切れが Enterprise Vault によって許可されたアイテムの数。
ユーザーによる削除が許可されたアイテム	分類の結果として Enterprise Vault によってユーザーが削除することが許可されたアイテムの数。
自動期限切れが遮断されたアイテム	分類の結果としての自動期限切れが Enterprise Vault によって阻止されたアイテムの数。
分類での破棄が遮断されたアイテム	削除にマークされているが、有効な保留状態にあるため Enterprise Vault が削除できないアイテムの数。

カウンタ	説明
ユーザーによる削除が遮断されたアイテム	分類の結果として Enterprise Vault によってユーザーが削除することがブロックされたアイテムの数。
分類で破棄されたアイテム	分類で削除としてマークされているため Enterprise Vault によって破棄されたアイテムの数。
分類に失敗したアイテム	Enterprise Vault による分類が失敗したアイテムの数。
正常に分類されたアイテム	<p>Enterprise Vault によって分類の目的で渡され、正常に分類されたアイテムの数。この数には、Enterprise Vault がアイテムを破棄できたかどうかに関係なく、分類によって削除としてマークされたすべてのアイテムが含まれます。</p> <p>正常に分類されたが、Enterprise Vault によるインデックスの作成が失敗したアイテムは、Enterprise Vault によって操作全体が自動的に再試行されるため、複数回カウントされる場合があります。</p>

分類のトラブルシューティング

分類機能を使うときに次の問題が発生する場合があります。

表 E-3 潜在的な分類の問題

問題	説明/解決方法
[管理コンソール]で[情報分類子を起動]コマンドを使用できない。	<p>Veritas 情報分類子を有効にするには、PowerShell cmdlet の <code>Initialize-EVClassificationVIC</code> を実行したかどうかを確認してください。</p> <p>p.80 の「Initialize-EVClassificationVIC」を参照してください。</p>

問題	説明/解決方法
Enterprise Vault でアイテムの分類が失敗する。	<p>次の項目のすべてを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Enterprise Vault 保持機能の有効なライセンスを所有している。 ■ Veritas 情報分類子を表示できる。 p.20 の「Veritas 情報分類子の表示」を参照してください。 ■ 正しい Veritas 情報分類子ポリシーが準備され、有効になっている。 ■ キャッシュの場所を正しく設定している。 p.13 の「Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認」を参照してください。 ■ ターゲットアーカイブの保持計画と Enterprise Vault 分類ポリシーを正しく設定している。各アーカイブに Enterprise Vault 分類ポリシーを含む関連付けられた保持プランが必要です。 ■ テストモードではなく標準モードで分類を実行している。 p.53 の「分類テストモードについて」を参照してください。 <p>分類キャッシュフォルダのファイルも調べる必要がある場合があります。</p> <p>p.94 の「キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成」を参照してください。</p>
アイテムが予想どおりに分類されない。	<p>次のことを試してください：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Enterprise Vault がアイテム进行分类していることを確認する（前述参照）。 ■ Enterprise Vault がアイテム进行分类しているが結果タグが維持されない場合は、テストモードで分類を実行しているかどうかを確認する。 p.53 の「分類テストモードについて」を参照してください。 ■ 分類ファイルを自動削除せずに保持するように Enterprise Vault を設定する。 p.94 の「キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成」を参照してください。 ファイルコンテンツの予想外の異常を確認できます。 ■ PowerShell cmdlet の Get-EVClassificationVICTags を実行して各アイテムに適合するポリシーを識別する。 p.78 の「Get-EVClassificationVICTags」を参照してください。 ■ Enterprise Vault 検索を使用して、アイテムが現在のポリシーセットによって分類されたかを確認する。 p.101 の「アーカイブ内での Veritas Information Classifier が分類したアイテムの検索」を参照してください。

問題	説明/解決方法
分類がテストモードでのみ動作する。	Enterprise Vault で保持機能の有効なライセンスを検出できない。

アーカイブ内での Veritas Information Classifier が分類したアイテムの検索

Enterprise Vault は、インデックスの作成中に分類したそれぞれのアイテムに、使用された Veritas Information Classifier のポリシーのバージョン情報をマークします。それぞれのアイテムには `vpcv` (Veritas Information Classifier ポリシーの現在のバージョン向け) というメタデータプロパティがあり、これには Veritas Information Classifier がアイテムを分類したかどうか記録されています。このプロパティには、使用されたポリシーが最新のポリシーセットであったかどうか記録されています。

Enterprise Vault 検索、Compliance Accelerator、または Discovery Accelerator を使って検索する場合、`vpcv` プロパティを使用して、取得した結果をフィルタすることができます。たとえば、Enterprise Vault 検索の簡易検索ボックスに入力できるクエリーの一部を次に示します。

<code>vpcv:**</code>	Veritas Information Classifier が分類したすべてのアイテムを検索します。
<code>NOT vpcv:**</code>	Veritas Information Classifier が分類しなかったすべてのアイテムを検索します。
<code>vpcv:True</code>	Veritas Information Classifier が最新のポリシーセットを使用して分類したアイテムを検索します。
<code>vpcv:False</code>	Veritas Information Classifier が古いポリシーセットを使用して分類したアイテムを検索します。